

事業報告書

令和2年度

社会福祉法人 あかりの家

2020(R.2)年 度

障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2021. 3. 31 現在

2020(R.2)年度 障害者支援施設 あかりの家 実施事業

事業名		事業開始年月日	
①	障害者支援施設あかりの家	施設入所	'86(S.61). 4. 1 県指定
		生活介護	
②	短期入所		'86(S.61). 9. 1 県指定
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)		'07(H.19). 4. 1 6市2町委託事業
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1 県委託事業
		姫路市	'08(H.20). 4. 1 姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1 高砂市委託事業
		播磨町	'14(H.26). 4. 1 播磨町委託事業
		稲美町	'17(H.29). 3. 1 稲美町委託事業
⑦	強度行動障害地域生活支援事業	兵庫県	'19(R.元). 10. 1 県委託事業

＜他＞①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設

②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営

③ 附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)

④わかば学園(加古川)グループホーム連携施設('12(H.24). 2)

⑤高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)

⑥日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

I 利用者状況('21年3月31日現在)

あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

呼称		
あかりの家 所属利用者	①入所者	日中は生活介護、WHに通う1名は生活介護と就労B併給(行政調整有)
	②通所者	⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会活動に参加。
あかりの家 所属とはしない利用者	③ショート生活介護	ショートステイか日中利用者の内、有期の療育目的や定期的な日中利用等のケースは、行政と調整し、泊はショート、日中は生活介護などとして契約しているところは上の⑦と同じであるが、保護者会活動などに参加しない利用者は、あかりの家所属とはせず、「ショート生活介護」としている。
	④ショートステイ	泊を伴う
	⑤日中一時	日中のみ

以下のデータは、「あかりの家に所属」の、上記①、②の利用者を対象とする。

1 定員と現員 2021年3月31日現在

定員	現 員
40名	施設入所 40名 (男31、女9)
	生活介護 (①+②) 48名 (男39、女9) 入所者 40 (男31、女9) 通所者 8 (男8、女0) 通所者内訳 ; 自宅から2、GH 友愛の家から5、ショート系⑦1

内、入所利用者1名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中はWH 高砂の「就労B」を利用。
生活介護利用者は、48名とあるが、1日当たり40名を超えることはない。

なお、「ショート生活介護 (③)」契約者はここではカウントしていない。3月末現在、該当契約者3人。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2021年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	11	
加古川市	13	2	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5		枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合 計	40	8

左表ではカウントしていない、あかりの家に籍を
置かない生活介護契約者(分類の③「ショート
生活介護」) ‘21年3月末現在、3名
(加古川市、姫路市、東京都)

3 利用者年齢 ()は、通所者で内書 3月31日現在

年齢	10代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69	
男	0	2 (1)	1	3 (2)	1(1)	5(1)	14(2)	11(1)	3	0	0	39(8)
女	0	0	1	0	0	0	3	4	0	0	1	9
合計	0	2 (1)	2	3(2)	1(1)	5(1)	17(2)	15(1)	3	0	1	48 (8)
(計)	0	4(1)		4(3)		22(3)		18(1)		1		48 (8)

最年少24歳、最年長65歳、平均46.0歳 (入所利用者平均年齢47.6歳)

4 障害等の程度 ()は通所者で内書 3月31日現在

(1)知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度(A)	中度(B ₁)	軽度(B ₂)	合計(人)
男	38 (8)	1	0	39(8)
女	9	0	0	9
計	47(8)	1	0	48(8)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2)障害支援区分 平均支援区分 5.65

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	30(4)	5(1)	4(3)	0	39(8)
女	5	4	0	0	9
計	35(4)	9(1)	4(3)	0	48(8)
比率	72.9%	18.8%	8.3%	0%	100%

(3)自閉症または自閉的傾向を有する者、()は通所で内書

	男	女	計
入所	30名/31名	5名/9名	35名/40名
通所	7名/8名	0名/0名	7名/8名
合計	37(7)人/39(8)人中	5人/9人中	42(7)人/48(8)人中
比率	94.9%	55.6%	87.5%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	30人	96.8%	5人	62.5%	88%
女	9人	100%	—	—	

(5) その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	1
	不所持	1	0	1	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03
入 所	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通 所	入	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/
	退	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/
合 計	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0

	年度	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計
入 所	入	2	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	0	74
	退	2	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	34
通 所	入	/	/	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	0	25
	退	/	/	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	16
合 計	入	2	1	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	0	99
	退	2	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	0	50

年	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25 ~15	14	13	12	11	10 ~9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
男	14	1	2	2	2	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	2	1	1	0	1	3	0	1	0	40
女	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	9
計	16	2	3	2	3	3	1	1	0	1	0	2	1	1	2	0	4	1	1	0	1	3	0	1	1	49

※①1986年4月 あかりの家開所

②1999年4月 四郷分場開所、閉所WH開所に伴い2003年3月(形式上、分場利用者退所)

③2008年4月 新体系に移行し、通所利用者受入れ

④2013年4月より、あかりの家に籍を置く日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上

⑤2017年4月 GH友愛の家開所

6 在籍年数(通所者を含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)

全利用者平均在所年数24.3年 / 男子平均年数24.0年 / 女子平均年数25.4年

入所者平均在所年数 27.5年 / 入所男平均年数28.1年 / 入所女平均年数25.4年

通所者平均在所年数 9.9年 / 通所男平均年数 9.9年 / 通所女平均年数 — 年

Ⅱ 生活の概況

1 日課(月～金)

6:30	起床
8:00	朝食
8:30	歯磨き、清掃(引継ぎ)
(9:00)	職員引継ぎ
10:00	ランニング、お茶・牛乳
10:30	作業
12:00	昼食(一部作業班は外食)
13:30	作業
15:15	ティータイム
15:30	入浴(毎日)・自由時間
17:30	夕食
21:00	就寝

土日祝、ランニングや作業なし
非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施
隔週で、週末帰省日設定(希望者)

2 余暇活動

- ①夜の時間帯 絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど
- ②担当者による任意の買物や散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、テイクアウトの購入など
- ③祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩などの外出

3 療育活動

- (1)学習活動・・・トモニ活動チーム4人を中心に活動(13年度より実施)。トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。

数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等、月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。

月曜日は一年を通してOさん、Nさん(隔週) Kさん、木曜日はAさん、Mさん(料理)の計5名の利用者の課題学習を行った。

Oさんは数字100並べ、数字書きとり等を通しての数字、数列理解の学習の他、クロスステッチや、詩の書き取りなどの活動をしてきた。

Nさんは数字の概念の理解を深める為に、タイル並べや、ゆっくりと動くことを目標としたなぞり書き等を行った。

Kさんはお金の学習を中心に取り組み、クロスステッチなどの創作活動も行ってきた。また、担当職員との関係作りの時間にもなった。

Aさんは時計学習とお金の学習を一年間取り組み、買い物の練習も行ってきた。

Mさんは家庭に繋がればという思いから野菜の皮むきを中心に行い、3月末に学習の成果を披露するべく、1階利用者と職員に料理(人参しりしり)を振る舞った。

NさんとMさんに関しては、新しく係に入った職員の勉強の場としても捉えていたが、その職員が退職した為、山下が引き継いで課題学習を続けた。また、学習の時間を新人系職員への「トモニ療育」の説明の時間にもあて、100並べも別で時間を取り、実施(新人研修とも連携)。

(2)料理活動

従来、トモニ活動の一環として料理活動を実施していたが、独立した活動としている。

あかり祭りや忘年会などの行事料理や、バレンタインデーなどのお菓子作り、休日の余暇活動の中での料理作りなどの活動をしていたが、今年はコロナウイルスの影響で、そのような活動も自粛となった。

(3)体操活動

隔週土曜日 13:30～15:00 に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

昨年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から活動を中止している。(密になることや公民館への移動のリスクを考えて)

4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華先生 (ボランティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
音楽	8人 + 随時	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30~1時間	永江きよみ先生 (ボランティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先生 (ボランティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な風作り・面作りなどの創作活動を実施。高砂市美術展、洋画家連合会などに出展。交流ホーム1F(04.10より)をアトリエとして使用。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

5 行事関係

(1) 一般行事(スポーツ行事を含む主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	のじぎくスポーツ大会(コロナの影響で中止)	11	加古川ツーデーマーチ(コロナの影響で中止)
	ばんたん親善運動会(コロナの影響で中止)	12	ばんたんゆうあい文化祭(コロナの影響で中止)
8	あかりまつり(コロナの影響で中止)		高砂マラソン(コロナの影響で中止)
10	親子一泊旅行(コロナの影響で中止)	1	第28回ナイスハートバザール(高砂アスパ)
			もちつき会(コロナの影響で中止)

(2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2人に支援員2人)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、原則公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる利用者は公用車利用。(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

代替行事として、「棟別お食事会」を企画・実施。感染予防には十分に配慮したうえで小グループでの食事会を行った。友愛の家に移動して特別感を演出した。職員が料理を作る過程を全員で見て楽しみ、実際に味わった。

(3) あかり喫茶

帰省日のない最終金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(5、6人)の応援で、毎月実施。

随時グループで参加。写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も数種類から選ぶ。

新型コロナウイルスの影響で年間を通じてボランティアの協力は得ず、内部で実施。

6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省、

05年度より隔週1泊2日となる。帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くする。

①週末帰省(隔週末1泊2日原則) 毎週末帰省2人程度、2泊帰省4人程度、帰省なし11人程度、月1帰省2名

②期末帰省(夏季5日間、冬季7日間、春季5日間(新型肺炎コロナの関係で未定)) 期末帰省なし11人

新型コロナウイルスの影響で1年間で3回(7月・12月・3月)のみ。

7 生活環境の整備、備品等の購入設置

(1)環境整備(草刈り);新型コロナウイルスの影響で、保護者会協力のもと行う形は中止し、職員が随時実施

(2)設備品の購入、設置工事;軽車両購入、リビング温水給湯器取付、廊下等共有部分暖房設備設置工事、食堂感染防止対策工事、感染対策用プレハブ設置

Ⅲ 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業)利用者40名 通所8名 計48名

(1)施設内作業・3月末現在(4作業種36人)

割り箸班	8人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株)マスキ 作業提供。
さをり織り班	7人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。製品化は、さをり製品化ボランティア「さをりの会」(保護者)や職員による。
軽作業班	10人	軽作業棟。アース製菓等商品の分別、リサイクル作業。(有)ハタリサイクルファクトリー 作業提供。
プラグ班	11人	さをり作業棟で開始。電気部品組み立て。(コンタクト ロックレバー 端子台 受け金ホルダー など)(有)米田製作所作業提供。2013年6月～

(2)施設外作業・3月末現在(3作業種12人)

マスキ班	4人	新型コロナウイルスの影響で年間を通じて(株)マスキの工場の一室を借りることを止め、割り箸袋詰め等の作業をあかりの家地域交流ホームの一室で実施。
旭班	6人	(株)旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備等の作業。2016年11月～ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止
WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事。1人が毎日車で送迎(就労継続B型)、1人が週3回グループホームより通所(生活介護)

2 作業班強化

(1)作業班整備

【旭班】

一昨年度11月より旭班として立ち上げ。(株)旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備の作業を行っている。室内作業による作業環境の改善、作業内容としても箱折り、のし折り、ダイレクトメールの宛名はり、サンプル商品の袋詰めなど多様な作業内容を行っている中、一般企業との連携という意識と強く持ち、ミスなく作業に取り組めるように環境整備や、作業工程の見直しなどを随時行いながら取り組んでいる。

2019年12月より、職員数不足の関係と新型コロナウイルスの影響で中止している。

(2)生産、報酬、消費サイクルの展開

工賃を消費サイクル(労働→報酬→消費)に乗せるための活動。形態は、作業班毎に工夫。(班毎に、あるいは個別に、コーヒーのマグネットをトークン、出来高制、特別ボーナスなど)

(3)作業班編成(利用者編成)

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

※ 日中活動として48名の利用者が作業を行っている。加えて短期入所、日中一時支援の利用者を加えると50名以上の利用者が活動する状況であり、現状の環境下では各作業場が飽和状態である。

(4)作業展開

2020年9月もみの木から頂いた新作業を試行。しかし、ノルマ、作業難易度、職員数、強度事業、夜勤の入り時間の変更を視野に入れるなどの理由から同年11月に作業終了。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等

12/12.13	第28回 あかりの家 ナイスハートバザール	アスパ高砂	さをり織り商品の販売。コロナにより、実演と見学中止。 1日目の販売時間縮小(20時→19時30分へ)
2/25～ 3/19	わかばや	若葉園作業所	アンテナショップからの繋がりですさをり商品を置かせていただいた。
3/1	コープマルシェ	コープ	福祉ショップ。アンテナショップからの繋がり。

4 作業収入と工賃支給（2021年2月末）

作業収入;計 1,118,112 円…内、工賃支給;計 1,037,760 円、軍手、工具等の直接経費 152,734 円

作業工賃基準…1人 21,600 円/年支給。但し、プラグ作業延長組 31,200 円/年

※作業工賃基準→1,800 円/月 旭班 2,000 円/月

プラグ作業延 1H長組 2,600 円/月 2H長組 2,800 円/月

Ⅳ 健康管理

1 入院の状況

科 名	通 院		入 院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内 科	82	119	11	151
外 科	7	7	0	0
整形外科	42	59	1	20
歯 科	246	260	0	0
眼 科	8	8	0	0
皮 膚 科	82	96	0	0
耳 鼻 科	14	14	0	0
精 神 科	80	122	2	50
婦 人 科	10	13	0	0
肛 門 科	23	25	0	0
泌尿器科	25	26	0	0
その他	6	6		
計	625	755	14	221

通院については、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり「延人数」として表記。

入院は、把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

＜精神科通院＞は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則（嘱託医の方針）。保護者の高齢化により園から通院することが、多くなってきた。さらに新型コロナの影響で園からの通院が増えた。

2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	17	3	20
	安定剤・眠剤等	17	8	25
内科系薬(整腸・肝臓・貧血、便秘等)		22	9	31
皮膚科系薬(水虫・湿疹等)		16	3	19
整形外科系薬(Ca 剤・骨粗しょう症等)		3	1	4
眼科系薬(アレルギー)		10	1	11
延べ総計(2重カウントあり)		85	25	110

内科系では、24人が便秘薬を服用。

3 健康診断・身体測定等

月	実 施 内 容	月	実 施 内 容
4	身体測定、歯科検診中止	10	身体測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
5	体重測定、歯科検診中止	11	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
6	体重測定、歯科検診中止	12	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
7	体重測定、歯科検診(歯石除去、歯磨き) 健康診断(利用者・職員)	1	身体測定、歯科検診中止 健康診断(変則勤務職員)
8	体重測定、歯科検診中止	2	体重測定、歯科検診中止
9	体重測定、歯科検診中止	3	体重測定、歯科検診中止

健康診断;R2 年度から利用者の健診も 7 月に変更。あかりの家にて実施(加古川総合保健センター)
検診科目(身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診)

4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後(作業前)、9時45分頃から10時過ぎ頃まで、準備体操、ランニング、お茶飲み実施。自立グループ用のコースも継続。ランニングが負担になる人は、運動場をウォーキング。夏季は、気温が高温になっている為、準備体操、ランニングは中止している。(熱中症対策の為)

5 ウォーキング班・ダイエット班(1F企画日課)

班活動としては休止。ただ、随時ウォーキングマシンを利用したり、裏山のぼりは継続している。

6 整体(健康・医療の方向から)

毎週木曜日、居室にて13:30から1名10分～15分程度、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生(柔道整復師)にマッサージをしてもらっている。(Ⅵ1の(5)参照)(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

7 その他

11/11 インフルエンザ予防接種。新型コロナの影響もあり、全員接種をしてもらった。罹患者0人。
今年度も、ノロウイルスに感染することはなかった。

V 支援部・調理部からの年度総括

<1Fフロア>

1 利用者

- ・入所者21名、通所3名の合計23名の利用者所属でスタート。12月21日にOさんが2F所属から1F所属へ変わり、入所者22名、通所者3名で年度を終えた。
- ・今年度はコロナウイルスの感染予防対策の徹底により、帰省も年間で3回のみとなり、様々な行事も中止になる中、現状を維持すること、コロナ禍でも利用者が大きく状態を崩すようなことがないような支援を主に意識して運営を行った。帰省関係でのトラブルなどが予想されたが、皆が同じように帰省しないことで、集団の意識としてそれが当然のように維持できた。支援面でも帰省変更の伝え方などを統一し、ある程度の見通しを残して伝えることが、結果としては良かったのではないかと評価している。
- ・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への、介護的な支援が徐々に必要となってきた。(継続課題)
- ・職員体制の変更により、12月から食事支援体制を4名から3名へと変更。支援員1名で見える利用者の比率が増え、支援が難しくなる場面もあったが、座席変更など環境的な工夫を行い、3名体制での支援が行えている。

2 職員

新任を2名迎え、女性12名、男性2名の14名でスタートしたが、11月中旬に支援員1名が退職。3月末現在
は支援員14名が所属。(1名怪我により休職中)
1月中旬より、支援員1名休職。2月末よりさらに1名が怪我により休職となり、2月3月と支援員数が少なく、2Fからの応援や、超過勤務などを発生させて運営を行った。
3月末に1名の支援員が復職。もう1名は自宅療養を継続中。

3 主な活動内容

<余暇活動>

コロナ禍により帰省が行えない状況の中、あかりの家での生活を少しでも充実させるため様々な余暇活動を行った。休日にはデザート作りやBBQを行ったり、個別に作品作り行ったりと、あかりの家でも楽しめることを考えて実施。また、帰省ができないことに加え、外出の制限により散髪などにも行けなかった為、あかりの家で散髪も実施させてもらった。

4 総括と来年度に向けた課題

今年度はいろいろ変化の中で、維持に徹した年。維持を目標にしてはいたが何も積み上げるものがないといった事は事実として受けとめたい。

職員数も少ない状況があったが、いる人数で、いる人で、現状のチームで確実に丁寧にできる支援を考えないといけなかったのだと今になって思う。既存の動きや取り組み、少ない人数で同じように何とかやりくりしてきたが、動きや取り組みそのものを見直すことが必要な状況だったと思う。人が少なくてもできる取り組みや、楽しめる企画などを考える努力を惜しんでしまっていたかもしれない。今のコロナ状況も同じなのかもしれない。「コロナだから仕方がない」「ワクチン接種まで仕方がない」といった考えを持っている。仕方がないことは事実だが、その事実を受け止めつつ、今できることは何かを見つける、コロナだからこそできることといった発想を持つことが必要なはず。遅くなってしまったが、ここに気づけたことを次へのステップとして、次年度は常にポジティブな1年にしていきたい。(年度末1Fフロア会議より)

(1Fフロア長 尾崎 勇一)

< 2Fフロアー >

1 利用者関係(次年度に向けて)

(1)今年度の課題と現在進行形の取り組み等

- ・Aさん：「地域移行」を前提とした3年の有期限有目的での通所利用。2020年6月より他事業所(就B事業所)と通所契約を結び、地域移行を果たす。課題はあるが、「行動障害の軽減と生きる力」をつけて、地域へ返した利用者である。
- ・Bさん(強度事業対象者)：2020年12月から2月末まで受け入れ。強度事業で神戸市内に暮らす行動障害(破衣・自傷・他害等)がある利用者男性を受け入れ。強度チーム(前阪・神戸・土井・谷口)を結成して、チームを中心に支援を展開していった。あかりの家で行動障害を軽減し、地域へ返していった。家族の変化も生まれ、改めて地域生活を支えていくには支援者や家族の成長や支えが不可欠という視点に気づかされた。

精神科の投薬を継続して調整している利用者が複数名いる。2020年度末現在の対象利用者の「投薬調整の目的や現状」をフロア職員で年度末に確認している。療育的な支援と薬物療法をセットで並行的に動かしていくことで、利用者のより良い暮らし作りが出来ればと考えている。

また、今年度はコロナ禍の1年であり、利用者の生活にも大きく影響があった。週末帰省が中止になったり、外出制限があったりと、いろいろな変化があったが、職員と一緒に生活する中で乗り越えていっている現状である。

2 2020年度2Fフロアを振り返って

(1)フロアの動き

①引継ぎの改革、②虐待防止運動、③行動障害の応援エピソードの募集、④余暇活動の展開など、直接的な利用者支援だけでなく、自閉症支援の周边的な・重層的な取り組みにも力を入れて展開してきた。既存の枠や、定型的な役割や支援に捉われすぎないように、積極的に展開していった。

また、今年度も強度事業の受け入れを行い、チーム支援を展開した。課題は多いが、利用者の成長だけでなく、職員側の成長にもつながっている事業となっている。

(2)職員の育ち

今年度は4名の新規採用職員を2Fフロアに迎え入れた。4名という多数の職員を受け入れたことは近年なかったもので、どう育てられるか？が2Fフロアの大きなテーマであった。結果として、想像以上の成長を見せてくれている。積極的に支援や活動を展開してくれており、フロアの雰囲気も良い。

また、強度事業にて前阪が中心的に担っていた事業の調整や展開を別の職員に任せて、成長してもらった。

3 総括と来年度に向けての課題

園長の交代があり、「あかりの家として大事にしていくものは何か。今何が必要か。あかりの家の支援とは何か？」といったあかりの家の療育の基本や柱を捉え直し始めた1年であった。2Fフロアでも意識改革や創造的な仕事を推進していくように努めた。人材育成を進めながら、2Fフロアの運営も展開できた良い1年であったと総括している。

(2Fフロア長 前阪 敬介)

< 医務室 >

1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。

今年度は肝機能障害4名(てんかんの薬の影響)、脂質異常1名(大きな異常なく、経過観察)、心電図異常6名(大きな異常なく、経過観察)、貧血5名(うち1名内服薬開始)であった。

2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定回数を増やすなど異常の早期発見に努めた。

3 インフルエンザや感染症予防

今年度、インフルエンザ予防接種は全員実施。

新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い、消毒、換気やマスク着用の徹底に全職員で取り組んでいる。

その効果もあり、新型コロナ感染者、インフルエンザ感染者ともに0名であった。

クロストリジウム・ディフィシル腸炎に数名罹患したと思われるが、トイレや居室などハイター消毒を実施したり、手洗いの徹底に取り組んだ結果、終息していった。

4 歯科検診

園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きを実施している。

毎月実施していた歯科検診であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は7月、10月、11月、12月の4回の実施となった。そのような中でも治療が必要な方や異常が起きやすい方を優先して通院したり、日々の歯磨き強化をしてもらい、口腔内の健康維持に努めた。

5 痔、腰痛対策

痔の方が1人増えた。予防としての便秘対策も含め、悪化防止に努めていく。

腰痛の方も数名通院したが、現状、治療はないため予防に取り組んでいく。

6 骨密度測定実施

今年度も骨折者が数名。骨粗鬆症を指摘されていた方ではないが、今後加齢に伴って増える可能性がある。異常がない方も2～3年に一度は骨密度を測定して、予防に努めていく。

前年度から治療(注射や内服薬)を開始した5名に関しては、定期的に骨密度測定を実施し改善傾向である。

7 排便対策

精神科の薬を内服している方が多いため便秘が多い。利用者によっては便秘薬を内服していても排便がない方、薬の効きすぎで下痢になる方もいる。便秘や下痢はQOLの低下につながるため、毎日排便記録をとり、便秘や下痢の際は主治医の指示の範囲内で薬の増減を行った。

(看護師 川西)

<調理部>

1 令和2年度施設目標 「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

2 実施内容

(1) 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	57,396	2,785	3,959	8,077	72,217
月平均	4,783	232	330	673	6,018

(2) 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 40名	通年	6月、9月、12月、3月
低リスク 39名 中リスク 1名	令和2年度計画変更者 0名	

(3) 衛生

①東洋産業害虫駆除毎月1回、②消毒年3回、検便毎月1回

(4) 防災

①自主点検 終業時毎日実施

②災害用食材(非常食・飲料水・備品)3日分を外倉庫に備蓄

(5) その他

価格調査2月実施 ハサップ講習会10月

3 業務取り組み内容

①行事食(中止の為代替えの食事に変更)

②季節メニュー(秋祭り、節分、ひな祭り等)

③手作りおやつ 毎水、日曜日提供

④栄養ケアマネジメント

④⑤ ⑤厨房会議(月1回)

⑥給食会議(8月、12月、3月)

⑦お楽しみメニュー

4 総括、今後の課題

- ・新年度は新人1名とほぼ年数の浅い5人体制のスタートで、新人に前期は厨房現場、中期は栄養士業務の献立、発注と覚えてもらいながら、他の職員も自分の仕事をこなすことに精一杯のところもあったが、後期では周りを助ける、会議での発案、スピード等も見え、全体で成長している。
- ・給食提供については、利用者さんの高齢化が進み個別対応が増えてきている。他部署との連携を取りながら利用者さんの状態に合わせて形態、栄養補助食品の導入等健康維持に努めている。
- ・悪天候による野菜価格の高騰で3倍になるものもあり、食材の変更等で何とか乗り切ることができた。
- ・コロナ感染症拡大防止の為、帰省日がほぼ中止となり行事食は代替で、外食等の代わりに“お楽しみメニュー”として提供させていただき、できるだけ利用者さんの食事の楽しみ、喜びが減らないように心がけている。
- ・勤務体制として、年末年始は支援部に協力していただいていたが、コロナ、親御さんの高齢化、支援部の負担等もあるので厨房からの提供をさせていただいた。今後も継続して行きたい。又、帰園日の朝食提供も次年度からは厨房で提供させていただく。
- ・厨房の基盤として勤務体制、業務分担等を整え、今後の成長となるように、又どのような状況でも日々気を緩めず、感染症、食中毒予防等の衛生面を徹底し、安全安心の食事提供が出来るように取り組んで行く。

(調理部主任 内藤 貴美)

VI 職員研修

1 支援員研修

(1) 第27回あかりの家事例研究会(3/14(日)10時～12時 ZOOM によるリモート研修)

講師(助言者) ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授

インクルーシブ教育研究センター長 青山新吾先生

10:00～10:40 亀山部長作成資料

10:45～11:25 ARS 検討委員会より(虐待防止委員・療育検討委員)

11:30～12:00 現場実践報告

研究会用冊子の発行(60部)

事後研修として、あくまでも自己研修の位置づけで事例研究会事後レポート作成。提出者分のレポートについては青山先生へ送付した。

<研修内容詳細>

① 亀山部長作成資料より

強度行動障害の方への支援 ～あかりの家における基本的な考え方～

※中堅職員の参加によるあかりの家の支援の深まり → 中堅職員を中心にリモート参加

② ARS 検討委員会より (虐待防止委員 療育検討委員)

→これまでの経過及び実践を踏まえた報告から、虐待防止と療育検討の考え方を整理できるような内容を実施。

③ 現場の実践報告(強度行動障害の方への応援エピソード他) → 尾西支援員 川田支援員 発表

(2) 学習会・相談日(嘱託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	4/18(土)	平井 Dr.	コロナウイルスによる緊急事態宣言中の為、中止
②	5/16(土)	平井 Dr.	コロナウイルスによる緊急事態宣言中の為、中止
③	6/13(土)	平井 Dr.	クローバー
④	7/18(土)	平井 Dr.	新任参加で相談を見てもらう企画
⑤	8/22(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑥	9/19(土)	平井 Dr.	クローバー
⑦	10/17(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑧	11/14(土)	平井 Dr.	クローバー
⑨	12/5(土)	平井 Dr.	強度事業を通してあかりの支援を振り返る企画
⑩	1/23(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑪	2/20(土)	平井 Dr.	クローバー
⑫	3/6(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3)かくたつ療育研修 (2000年10月開始)

スーパーバイザー：(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

① 第1回 9/27 リモート研修

「強度事業」について報告し議論していく。

・あかりの家における支援の基本的な考え方(亀山)

・1階、2階強度事業利用者取り組み経過

※外部参加:三気の家、麦の子会

② 第2回 2/28 リモート研修

・1F「Nさんの投薬調整と取り組み」

・2F「強度事業 Mさんの取り組み経過」

※外部参加:三気の里、三気の家、麦の子会、廣井さん

事前に資料を作成し片倉先生に送付。当日、ケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。その後、利用者把握で参加できなかった支援員には、参加支援員から説明。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(①療育のポイントと感じたこと②質問等)」のレポートを提出。後日、片倉先生から質問等に対するコメントをいただく。

リモート研修になったことで、その後、麦の子会の研修、三気の家、三気の里の研修にも参加している。

(4)トモニ療育研修 (2010年11月開始)

2010年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、療育研修として継続している。

<2020年度の活動について>

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、2年連続での見送りは避けたいとの思いで河島先生に「オンライン研修」を依頼。しかし、「リモートでは、本当に大切な所が伝わるとは思えない」との返事を頂き、更に「一応完結している。十分にやってきた」「これからは皆さんが本物になっていく」とのお言葉を頂き、一つの区切りを迎えた。

次年度以降、あかりの家でどのようにトモニを普及・展開していくのか検討する部会が必要。

(5)整体(研修の方向から)

<経過> 2007,2008 年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り上げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1~3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

<今年度> 新型コロナウイルスの影響で、今年度も再開できなかったが、再開の目途が立ち次第、永田先生と相談し、再開の予定。整体の係の職員の中には、整体に未だ参加したことのない職員もいるため、レクチャー含め、整体の係でない1, 2年目の職員にも整体の意義と身体への触れ方を学んでもらう予定。

(6)中堅職員研修

「あかりの家における強度行動障害支援 —基本的な考え方— (亀山作成)」を相談日に発表。

平井先生の助言をいただくとともに、中堅職員が「あかりの家における支援」の説明力を高めることを目的として実施(交流ホーム)。

<参加者>平井先生(大塩病院)、谷口(司会)、亀山(発表)。野村、今後、松島、吉田(受講)

<開催を終えて>

中堅職員として参加した4名の説明力が高まる場になったか否かは、実際にこれから実習生などの外部の方たちと接する機会の中での評価となる。自分で説明する力を高める必要性を感じてもらえる機会にはなっていると捉えている。

(7) 課題検討委員会

1. 新型コロナウイルス感染対策委員会

新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年度3月新設。

<委員>○亀山、山口、長谷川美、前田、川西 Ns

<主な活動>

①感染予防への取組み推進

②感染防止対応マニュアルの策定（予防的取り組み、職員・家族に発熱等が見られた場合の対応の基準検討、感染者が出た場合のゾーニング他）

③利用者の帰省及び外部者（ショートステイ、業者など）の利用についての判断（坊垣園長、亀山他）

④オンライン面会の開催および長期休み実施・期間などの検討

⑤感染対策、感染状況などの発信（新聞記事他）

⑥第27回事例研究会での自主論文投稿（山口、長谷川美）

あかりの家で感染者が発生すると、クラスター化する可能性が高い危機意識を念頭に1年間、活動を行った。利用者の隔週帰省は年間で4回と大幅に縮小。「持ち込むのは職員、外部の可能性が高い」ことから職員の予防呼びかけ、ショートステイの利用の縮小（各フロア1名。日中一時は各2名）、緊急事態宣言の発令時等は利用も控えていただく等の対応を行った。

また、事務局主導で食堂の飛沫防止シールドや網戸全居室取り付け、交流ホーム横に感染者用の部屋（コンテナ）や玄関に手洗い場の設置など大規模な工事を伴うハード面での整備を行った。

<評価>

何とか乗り切ることができたが、変異株の感染拡大により、2021年3月以降、圏域内の施設の感染発覚が見られており、更に緊張感が高まっている。

2021年度は待望のワクチン接種、利用者・職員のPCR検査実施など、医療面からの対応が予定されている。一番のキーは、「私も感染しているかもしれない事を念頭に行動する」こと、日常の感染対策である

(8)施設見学、現任訓練等（未実施）

(9)発達障害支援スーパーバイザー養成研修受講(中止)

(10)出張研修（主なもの）

月	研修内容(実質研修期間)	研修地	参加者
10	障害者虐待防止対策研修	高砂	山口、後藤
11	播磨地区施設長会(役員会議・研修)	姫路	長谷川副施設長

2 新任職員研修(支援員)

(1)出張研修(未実施)

(2)内部研修（新任研修プログラムによる年間研修）

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク)地域支援については研修担当から説明程度にとどめた。女性支援員のため、旭班・マスキ班以外はレクチャー3回実施。男性支援員は旭班以外3回レクチャー実施。“基礎体力をつける”のデータを渡した。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。勤務時間内に青山先生のDVD鑑賞。5月末に青山先生のDVDを見てのレポートを提出。
6~3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
6~2	課題レポート
12	学習会実施(各々の担当ケース発表:支援等での悩みなど)期末レポート(自分の課題と質問)
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)
通年	あかりの家に届く施設だよりの回覧。

3 保健衛生関係研修(主なもの)

月	研修内容	研修地	参加者
7	新型コロナウイルス感染症発生時の対応事例にかかる検討会	姫路	川西

4 調理員研修(主なもの)

月	研 修 内 容	研修地	参加者
7	東播磨給食施設相互支援体制整備検討会	加古川	内藤

5 運営・管理・経営的・事務な研修(主なもの)

月	研 修 内 容	研修地	参 加 者
8	高砂市福祉法人連絡協議会令和2年度総会	高砂	(斎藤)
9	安全運転管理者講習会	姫路	坊垣
11	安全運転管理者等講習会	姫路	足立

6 自己啓発研修

15件利用、図書購入5件、『さぽーと』購入補助9人、その他研修1人

VII 地域交流

1 ボランティア

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
 - (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
 - (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
 - (4) あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3または第4金曜日 午後、月1回利用者用の喫茶店実施
 - (5) さをり織り製品化ボランティア(あかりの家保護者、元あかりの家利用者保護者、ショートステイ利用者保護者)
- ※上記(1)～(5)すべて、新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

2 あかりの家利用者行事への地域等からの参加 (特になし)

3 地域交流ホームの開放

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回) ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止
- (2) 専門図書貸し出し(特になし)

4 地域行事等への参加等 ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

5 広報

(1) ホームページ

新HP(3代目)2013年7月18日にアップ。新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

近年、職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

2019年7月頃ホームページアクセス数がカウント出来ていないことが発覚。業者に依頼し、7月よりカウント開始している。また、更新を試みて、個人情報保護の観点から保護者に写真掲載の許可願いの文書を作成したが、職員より賛否両論あり。そこで躰き、更新させるところにまで至らず。

(2) 広告 なし

(3) 発刊物等

	発行日	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.365～ No.376	毎月	各 100 部程 延 1,000 部程度	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、 採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.30	11/1 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域 関係施設・全自者協施設・関係機関等
第27回「あかりの家事例研究会」	3/14	70部	法人あかりの家職員、講師、関係者 他

(4)掲載記事等(新聞・雑誌・機関紙等)(特になし)

(5)展示・出展

展示、販売 (「P.6 Ⅲ「作業の概況」の「3 福祉バザー、作業製品展示・販売等」参照)

7 あかりの家施設見学受入 … 2件5人(内、県外 0件0人)

PTA・保護者		福祉事業所関係		教育・保育関係		行政・議員関係		地域関係者		当事者	
件	人	件	人	件	人	2件	5人	件	人	件	人

新型コロナウイルスの影響で年間を通じて縮小

Ⅷ 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1)兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	15	101	自閉症	15	85	重度	8	25
			知的障害	2	4	中度	1	5
			重症心身	0	0	軽度	6	61
			身体障害	0	0	その他	2	10
			その他	2	0			
施設支援指導事業	11	37	生活介護・就B他	4	18	施設支援指導事業	11	37
			地域活動支援センター	0	0			
			学校・保育園	3	19			
合計	26	138	合計	26	138	合計		138

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	26	138	療育相談	138
その他県内	0	0	療育援助	0
			その他	0

(2)姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	27	59	自閉症	26	65	重度	26	66
			知的障害	1	2	中度	1	1
外来療育等支援事業	8	8	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	0	0
施設支援事業	8	47	生活介護・就B他	6	23	施設支援事業	8	47
			グループホーム	0	0			
			学校・保育園	2	24			
合計	35	114	合計	35	114	合計	35	114

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	35	114	療育相談	98
			療育援助	4
			その他	12
合計	35	114	合計	114

2 短期入所(介護給付)35人 延631日

利用形態		障害種別			男女・児者		市 町					
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	631	自閉	32	631	男	31	高砂	3	35	神戸		
私的契約	0		91%	98%	女	4	加古川	17	167	尼崎		
		知的	3	28			播磨町	2	16	宍粟		
			9%	5%	児	3	稲美町	0	0	朝来		
		難病	0	0	者	32	明石	0	0	神町		
			0%	0%			姫路	11	48	県外	2	365
計	631	計	35	631	計	35				計	35	631

3 日中一時支援事業(地域生活支援事業)31人、延164日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	164	自閉	29	157	男	26	高砂	6	60
			93%	96%	女	5	加古川	15	50
私的契約	0	知的	2	7			明石	0	0
			7%	4%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児	7	稲美町	0	0
			0	0%	者	24	姫路	10	54
計	164	計	31	164	計	31	計	31	164

4 被虐待者障害者一時保護支援(高砂市と播磨町・稲美町と契約)

実績なし

5 姫路親子体操教室(兵庫県自閉症協会姫路ブロック事業)

こどもの身体への働きかけを通して、受容と主導のバランスをもった親子のいい関係作りをめざす。

三原前施設長の高砂親子体操教室のプログラムを準用し、'95.7三原前施設長が指導者として開始。

'20年3月で649回実施。基本は月2回、道端、後藤支援員がメンバーとして、土曜日、10時から1時間半程度実施予定であったが、'20年4月以降〜コロナ感染防止のため、中止している。再開の目途はたっていない。

'20年度	メンバー;小5から27歳の男子6人、 姫路市5人、太子町1名	0回	コロナ感染防止のため中止
-------	-----------------------------------	----	--------------

6 講師、発表、寄稿等 ※()は法人内別事業所職員

兵庫県	令和2年度強度行動 障害支援者養成研修	基礎研修 実践研修	コロナの影響で中止	講師・演習 補助	坊垣、亀山、(和田)
兵庫県自閉症協会・神戸市自閉症協会 研修旅行				講師、介助	コロナの影響で不参加
行動援護従業者養成研修(NPO法人ぱれっと 主催;神戸市)			コロナの影響で中止	講師	坊垣、亀山、尾崎、前 阪、(齋藤、和田、濱口)
「初年次演習Ⅱ」(兵庫大学)			リモートで参加	講義	尾西

7 関係団体等への役員や職員派遣等 ※()は法人内別事業所職員

全日本自閉症支援者協会		理事	19.7~	(和田)
兵庫県自閉症協会		役員	20.4~	坊垣
神戸市自閉症協会		顧問	20.4~	坊垣
播磨地区 職員代表者会		スポーツ委員	20.4~	道端
播磨町	播磨町障害者福祉施策推進協議会	委員	20.4~	坊垣
	播磨町地域自立支援協議会推進会議	委員	20.4~	坊垣
稲美町	地域自立支援協議会	委員	20.4~	坊垣
高砂市	自立支援給付等審査会	審査委員	20.4~	坊垣

	地域自立 支援協議 会	全体会	構成員	20. 4～	坊垣
		運営会議	委員	20. 4～	坊垣
		くらし部会	委員	19. 4～	(斎藤)
		こども部会	委員	14. 4～	(福原)
		障害福祉計画進捗評価会議	構成員		坊垣(濱口)
	高砂児童学園運営懇話会	委員		‘19. 11～	坊垣
社会福祉法人 トリトン		評議員		16. 3～	坊垣
社会福祉法人 常寿会		評議員		17. 4～	藤原

8 主幹開催等 なし

9 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月～

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】

- ①対象者の受け入れ
 - ・人 数：1人(男性1)・延べ日数：92日
- ②通所施設等の支援者研修受け入れ 2事業所2人・延べ日数:36日
- ③通所施設等への直接支援 延べ日数:9日
- ④その他 ヘルパー支援、関係事業所や保護者への支援、見学受け入れ

10 実習受入(見学は前章の7参照)

- (1)発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(コロナ感染防止の為、全自者協として中止)
- (2)強度行動障害地域生活支援事業(1件2人、延べ62日)
- (3)学生、施設職員(含上記(1)、(2))、学校先生等・・・20件、29人、延203日)

社会福祉支援実習(社会福祉士受験資格)	0件	0人	延 0日
保育実習	0件	0人	延 0日
介護等体験(教職員免許必修実習)	0件	0人	延 0日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	0件	0人	延 0日
発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(上記(1)再掲)	0件	0人	延 0日
インターンシップ受け入れ	3件	5人	延 3日
強度行動障害地域生活支援事業・事業所職員実務研修(上記(2)再掲)	1件	2人	延62日

予定していた実習はコロナ感染防止の為、中止となった。

(4)児童・生徒

体験実習(特別支援学校)	0件	0人	延 0日
--------------	----	----	------

11 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定(‘14(H.2).11)

IX 個別支援計画・施設サービス評価・苦情解決

- 1 個別支援計画 前期と後期の年2回作成。(保護者との懇談はコロナウィルス感染拡大を受けて中止)
昨年度より、期間を1期を3/1～8/31、2期を9/1～2/29としている。対象となる期間の前に説明、押印いただく形とした。
- 2 施設サービス評価 平成21年2月28日実施 以降なし

3 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

苦情受付担当者	尾崎 勇一 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	坊垣 勝彦 (あかりの家施設長)
第三者委員	富士原一成 (前 高砂市社協理事長) 高尾 剛一 (元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望等」の項目を設定し、毎期末休み明けに要望を聞き取っている。

今年度、9件「あかりの家への要望等」を取り上げる。

<受付事例>

支援に関する内容(療育支援に関すること・衣類管理に関すること・長期休みの短縮希望など)
外部からは、コロナ禍による短期入所・日中一時事業の受け入れ中止に対して要望など

X リスクマネジメント・虐待・防災・安全・衛生

1 リスクマネジメント

怪我、投棄ミス、物品破損、車キズ等については、「事故等報告書」提出を義務付け。

20年度は84件(+30件)。(19年度は54件、18年度は55件。17年度は55件。16年度は56件。15年度は、57件)。増加要因として、食器破損については提出を義務付けた事も大きい。一方で破損をさせないための導き方など支援力的な面の弱さも関係していると推察される(新規採用6名)。

<怪我>21件(前年比:+2件)

骨折4件(+2件)。打ち身、腫れ、切り傷、すり傷等が16件(±0件)。

ランニング・作業棟移動での転倒は0件(2019年度は1件。2017年度:4件)。

<破損(利用者対応を伴う)>33件(+23件)

ガラス破損6件(+4件)(19年度2件、18年度2件)、食器破損18件。その他、椅子、ベッド椅子等。

<投棄ミス> 23件(+6件)

<その他>7件(食事提供ミス4件、無断外出2件など)

2 虐待

(1)2020年1月「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—②」を作成

3月「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—③」を作成

2020年 前期 ペアチェック実施(利用者の呼称と声かけの見直し)

2021年 3月 事例研究会にて発題

(2)各期末全体会で、虐待防止委から問題提起と検討会議実施

ペアチェック2回実施

「身体拘束記録」での、記録と報告

「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」尿カテーテル使用者1人に3か月ごと作成、保護者に提示説明

(3)ARS再検討委員会の設置

これまで作り上げてきたあかり療育スタンダードに息を吹きかけ、自分たちの財産として残していく。①共通確認②知識最低基準③療育検討④虐待防止⑤キーワードをARS5本の柱とした。

3 防災

(1)防災訓練

①避難訓練

12月15日 避難・通報訓練

3月23日 避難・通報訓練(夜間想定)

※今年度は高砂消防本部を要請しての避難訓練は実施なし

②新任レクチャー(4月に実施)

・火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

(2)消防自主点検 月2回程度実施

(3)消防計画変更なし

- (4)防災マニュアル作成
 (5)業者委託点検等
 a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年2回(4、12月)点検
 内、10月分を「消防用設備等(特殊消防用設備等)点検結果報告書」として高砂市消防本部へ届出
 b 特殊建築物等定期調査 ➡ 有(9/4)
 c 水洗機、ガス式乾燥機点検 年1回(2月)点検
 d 自家用電気工作物(高圧受電設備)保安管理 2019年10月1日から毎月1回点検
 ➡1/21点検 不具合部分(アース取付)修理済み
 (6)電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) ➡ 無
 (7)LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) ➡ 9/16 ガス漏れ箇所あり
 マツシタへ修理依頼 ➡ 9/28 修理済み

4 交通安全

- (1)車両管理:担当者により点検
 (2)無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に11年連続11回目の参加。3チーム(1チーム10人、計30人参加)編成し、1チームが無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。
 (1チーム時代6回中5年無事故無違反、今回含めて延23チーム中16チーム無事故無違反達成)
 (3)安全運転管理者等講習会 11/19 足立事務員(補)出席
 安全運転管理者等講習会 9/4 坊垣施設長出席

5 衛生

- (1)貯水槽清掃 8月11日業者にて実施
 (2)合併処理浄化槽関係
 ①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施
 ②(社)兵庫県水質保全センター検査 8/4 「適正」

XI 総務関係

1 職員の採用・退職(あかりの家)

- (1)正規職員 採用8人 4/1支援員(男3女2) 栄養士兼調理員(女1)
 8/17 事務員(女1) 12/7 事務員(女1)
 退職1人 11/25 支援員(女1)
 (2)嘱託職員 退職1人 10/30 支援員(男1)
 (3)パート職員 採用1人 9/1 看護師(女1)

2 求人活動(法人)

(1)2022年新卒支援員等求人

- ①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用(対象期間:2020年6月~2021年5月)
 ◇エントリー総数:108人、インターンシップ参加者:5人、オンライン説明会参加者:44人、見学説明会参加者:15人、採用試験受験者:7人
 ◇新型コロナウイルス感染防止のため、合同説明会等イベントへの参加は中止した。また、インターンシップの大部分も開催を取りやめた。ただ、インターンシップから内定まで繋がる学生が毎年数名程度おり、そのケースは定着率が高い傾向にあるので、インターンシップは意味があると評価している。
 ◇オンライン説明会での対応にシフトした結果、法人あかりの家に興味のある学生がエントリーをすることとなり、また時間と場所の制約が少ないせいか、前年より多くの学生と出会うことができ、見学説明会への参加率向上と採用試験の受験者増に繋がった。

3 職員構成(あかりの家)('21.3.31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員	男	1	1	16					18
	女			12	1	4	2	3	22
現員	計	1	1	28	1	4	2	3	40

非常勤			4(4)	2(2)	1(1)			7(7)
計	1	1	32(4)	3(2)	5(1)	2	3	47(7)

4 職員年齢構成('21. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	5	5	5	2	1		18	40
	女	11	4	4	1	2		22	
非常勤			1(1)	2(2)	2(2)	2(2)		7(7)	7(7)
総計		16	10(1)	11(2)	5(2)	5(2)		47(7)	47(7)

※常勤職員平均年齢39.4歳、常勤生活支援員平均年齢33.6歳、常勤職員平均勤続年数7.7年

5 資格取得の状況(常勤職員:延人員)

サービス管理責任者(7)、社会福祉士(7)、精神保健福祉士(1)、介護福祉士(1)、介護支援専門員(1)、保育士(5)、知的障害援助専門員(1)、教員(5)、幼稚園(2)、相談支援援助実習指導者(1)、臨床心理士(1)、公認心理師(1)、看護師(2)、准看護師(1)、管理栄養士(2)、栄養士(2)、調理師(2)、防火管理者(4)、社会保険労務士(1)

6 表彰(法人)

(1) 法人あかりの家表彰(2011年4月「表彰規程」施行)

20年勤続	尾崎雄一、村田伊津子
10年勤続	斎藤克己、神戸孝大、土井孝介、原 冨佳、山崎 亨

(2) 外部機関・団体からの表彰

県全運転管理者部会等共催	無事故・無違反運動 「チャレンジ100」達成表彰	3チーム・30人参加、 1チーム達成
--------------	-----------------------------	-----------------------

7 衛生委員会(2016.9.1発足)

委員会:毎月1回開催(年12回実施)

委員:統括管理者(坊垣)、産業医(井野)、衛生管理者(藤原)、看護師(川西)、改善委員会担当支援員
主な議題:長時間労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策、作業環境について等

8 購入、工事、修繕、寄付物品等(10万円以上)

5月	洗濯機(1F.2F用)2台((株)ODS)	21.1万円
9月	網戸修繕工事(河田建設(株))	57.6万円
10月	車いす及び傘立て収納用物置設置(河田建設(株))	19.1万円
10月	交流ホーム火災警報器取替工事(豊設備商会)	17.1万円
11月	軽車両N-BOX(ホンダカーズ山陽)	97.4万円
11月	1F.2Fリビング温水給湯器取付(豊設備商会)	147.0万円
12月	園舎廊下等共有部分暖房設備設置工事(河田建設(株))	1086.8万円
1月	南棟2階漏電修理、電源増設工事(河田建設(株))	33.5万円
1月	食堂感染防止対策工事(河田建設(株))	40.1万円
1月	交流ホーム横 プレハブ設置(河田建設(株))	309.1万円

年度特記事項

- 強度行動障害地域生活支援事業(県単委託事業2年目)を実施(コロナの影響で対象者1名のみ)
- コロナ対策として実施
 - 食堂感染防止対策工事
 - プレハブ設置
- コロナ対策に付随して、利用者の生活環境改善を実施
 - 1F.2Fリビング温水給湯器取付
 - 園舎廊下等共有部分暖房設備設置工事

令和2年度 児童デイサービスあかりの家 事業報告

令和3年5月6日

福原正将

1. 事業の状況

児童発達支援室の行う業務は、

i) 児童福祉法に定められる児童通所支援事業

ア) 児童発達支援事業

イ) 放課後等デイサービス事業

ウ) 保育所等訪問支援事業

ii) 福祉サービスとしては定められていない児童に関する相談、療育支援

がある。

《通所支援事業》

① 契約状況(令和3年3月31日現在)

事業名	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
人数	18名	34名(特支14名)	8名	52名

② 事業実績

	4月	5月	6月	7月	
児童発達支援	35(-16)	41(-16)	70(+10)	72(+3)	
放課後等デイ	79(-23)	82(-22)	129(+23)	119(-4)	
保育所等訪問	1(-7)	1(-7)	8(±0)	10(+2)	
	8月	9月	10月	11月	12月
児童発達支援	66(+15)	73(+11)	87(-14)	70(±0)	72(-6)
放課後等デイ	111(+8)	121(+16)	118(+11)	102(-9)	112(-1)
保育所等訪問	2(±0)	13(+5)	9(+1)	9(+1)	10(+3)
	1月	2月	3月(見込み)		年合計
児童発達支援	68(+4)	68(+6)	82(+63)		804(+58)
放課後等デイ	112(+15)	104(+2)	128(±0)		1317(+16)
保育所等訪問	11(+5)	10(+4)	10(+10)		94(+17)

*()内は、昨年同月比

*新型コロナウイルス感染症に絡んで、4～5月緊急事態宣言に伴う利用自粛。12月には利用児童の所属する保育園で、成人施設あかりの家で濃厚接触者の確認があり(いずれも陰性)、利用自粛要請を一部実施。

2. 今年度の振り返り

新型コロナウイルス感染症の影響は大きかった。利用自粛に伴う経営状況のひっ迫、利用児童の状態不安定。支援員においても、緊急事態宣言下で、個別的な家庭の事情により出勤できない状況もあり、現場にいる支援員だけで何とかサービスを維持していった。それらを挽回するために、年度後半は現場一体となって、運営面や支援面で“連携”が取れたように振り返る。外部との連携については、コロナ感染症の影響があり密に関わる事ができず、支援の連続性については非常に苦慮した。利用児童は、新しい生活様式の中で、上手く適応できた子と適応できなかった子がはっきり分かれている。適応できた子の方が多かったが、適応できなかった子については状態の大きな崩れを起こしてしまい、立て直しがきかないほどの大きな傷になった子もいる。次年度にかけて、その立て直しも含め引き続き求められる役割を果たすべく運営、支援をしていく。

地域からのニーズの現状として、大きく2つのニーズがある。行動障害を有する支援困難児童の受け入れと知的な障害が境界域にある発達障害を有する児童の受け入れ。これまでの実績が人伝えに拡がり、行動障害への対応、発達障害への対応を丁寧に行える事業所として評価を頂いている証明であると自負する。

この丁寧な支援を継続するために、支援員の専門性の向上、厚みのある組織作りが急務であり、第2事業所構想を通して、その実現を目指すための話し合いも進めてきた。

令和2年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

令和3年3月31日

I 県レベル機能

1 重点的取り組みに対する総括

(1) ひきこもり状態の相談者への支援の充実

クローバーCRAFTプログラムで効果が見込まれると思われる相談者に実施した。グループでの実施だけでなく、プログラムを個人で実施する事例もあった。また、継続した支援が必要となることから、訪問等も行いひきこもり状態の変化を導く支援を行うようにした。

また、クローバースタッフの支援力向上を目指し、CRAFT ワークショップ、CRAFT 実践報告会を実施し、スタッフが参加した。

(2) 支援機関への支援の充実

- ・ストレスマネジメント講座については、就労移行支援事業所2か所で実施し、実施定着支援における課題点等を抽出した。出された課題を踏まえ実施マニュアルの改訂を行い、予定通り令和3年度に実施機関の募集を行いたい。
- ・発達障害実務者養成講座、市町発達障害相談窓口研修会は新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった。
- ・センター、各ブランチごとに市町発達障害相談窓口に対して事例検討会や研修会を実施した。
- ・児童発達支援事業所に対しての「家庭療育支援講座」の実施定着支援は、全県で9か所実施した。

(3) 高校生年代への支援の検討

- ・グループ支援を実施している。当事者のグループでは、趣味や興味のあることで集まる会やコグトレを行った。保護者グループは、進路のことや先輩当事者の話、施設見学をリモート等で行った。
- ・どういった支援が必要であるかを検討するための、高校生のニーズ調査を行い、結果を連絡協議会で報告した。また、協議会で行った報告をもとに、クローバーでの支援（個別支援、グループ支援）をまとめた事例集を作成中である。

(4) 他害行為や触法行為等の支援が必要な事例への支援方法の検討

- ・触法行為のある事例の生育歴等の調査を行う。また、触法行為のある事例とない事例の比較を行い、差異のまとめを行っている。(センター)

(5) 市民向け講演会の開催

- ・一般市民に広く発達障害のことを知る機会を持つてもらうことを目的に講演会を行う予定にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、動画配信で「発達障害とは」を作成。YouTube での配信を予定している。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発・研修

①研修（実4回 延6回、延参加者数 112人）

（参考：研修会詳細）○内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.16	家庭療育支援講座 研修会 【明石市保健所】	WEB 講演 「家族支援の必要性 ペアレントトレーニングについて、国の動向から」 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室	49

		発達障害対策専門官 加藤永歳 氏 発達障害施策調整官 田中尚樹 氏 概要説明 ①講座の実施内容(対象について、場所セッティング、他機関との連携など) ②実施にあたって(事務手続き、準備物、単独開催 質疑) ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内雅樹 講義 「家庭療育支援講座の基礎理論～応用行動分析(ABA)の紹介～」 ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西プランチ 主任相談支援員 平生尚之 氏	
10.29	平成30年度 発達障害実務者養成講座 (成人期)前年度延期分 (兵庫県) 【中央労働センター 兵庫県学校厚生会館】 ※講師はwebでの講義	講義「グループワークの進め方」,グループワーク「5分レポートの演習」 講義「ケース検討会議の進め方」,グループワーク「ケース検討会議の演習」 講評・質疑応答・意見交換 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授 近藤直司 氏	27
11.21~23	CRAFT ワークショップ 【学校厚生会館】	1日目「イントロダクション」 「CRAFTとは」 「CRAFTのエビデンス」 「機能分析」 2日目「コミュニケーションスキル」 「非使用行動に対する正の強化」 「問題解決スキル」 「物質使用の当然な結末」 「満足度スケールとゴール設定」 3日目「IPの治療開始」 「認証に関する情報」 Web講義 New Mexico 大学 CASAA 教授 Dr. Hendrik G. Roozen A/CRA/ASIA 佐藤 彩有里氏 ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西プランチ 主任相談支援員 平生尚之 氏	22※
R3.3.19	CRAFT 実践報告会 (兵庫県) 【ZOOM】	講義「全年代的ひきこもり支援」 宮崎大学 教授 境 泉洋 氏 講義「家庭内暴力と機関連携」 札幌学院大学 教授 山本 彩 氏 実践報告① 兵庫県立大学 川田美和 氏 実践報告② ひょうご発達障害者支援センター 上郡プランチ 山内大輔 氏、谷藍加 氏 検討およびSV 総評 境 泉洋 氏・山本 彩 氏	14

※修了証授与者数

②講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 12 件 延参加者数 484 人)

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.20	職場適応援助者養成研修 「障害特性に応じた就業支援の方法(発達障害)」	22	和田	神戸
R3.2.18	ハローワーク三宮 職員研修「発達障害のある人の支援」	25	和田	神戸

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
5.28	兵庫県消費生活総合センター 職員研修会「発達障害の理解と支援」	15※	和田	神戸

8.27	兵庫県消費生活総合センター 職員研修会「発達障害のある人をどう見るか」	22※	山内	神戸
11.9	播磨地区知的障害者施設協会 職員研修「分かりづらさを考えよう」	15※	和田	中播磨
12.18	兵庫県男女共同参画センター 研修会「発達障害の理解と支援」	35	和田	神戸
R3.1.24	ひきこもりサポーター研修会「発達障害の理解と支援」	13	和田	中播磨

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.5	兵庫県特別支援教育センター発達障害教育研修(応用研修)「発達障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けた就労支援講座」	85※	和田	神戸
R3.1.7	神戸市芸術工科大学「発達障害の支援と理解」	10	和田	神戸

【医療】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
R3.2.18	かかりつけ医対応力研修「成人期の発達障害のある人の支援」	53	和田	神戸

【行政】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
12.14	再犯防止関係機関連絡会議「発達障害の理解と支援」	42	和田	神戸

【一般】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.3	大人の発達障害を考える西播磨県民フォーラム「大人の発達障害」	147	和田	西播磨

※ハイブリット型研修(リモートと集合)のため、参加者数は会場での参加数。

③研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
あかりの家 事例研究会「ひょうご発達障害者支援センター 実践事例集」	橋本、杉原、山内
「雇用開発ひょうご No.152 号～No.155 号 発達障害者支援センター長より一言」	和田

④ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	11 回(研修会情報等)
訪問者数	延 21,836 人(月平均延人数:約 1200 人)
見られたページ数	延 70,664 ページ

(2)調査・研究

- ・ 触法行為や他害行為が見られる事例に対する支援実態調査：

発達障害者支援センター、ブランチでの既相談事例から、触法行為、他害行為が現れている事例の実態把握を行った。今後は、触法行為、他害行為が現れていない事例との比較を行い、リスク要因と考えられるものを見出していく予定にしている。

(3)機関連携

①連絡協議会の実施 実施回数 (延 2 回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
連絡協議会	第1回	8.31	中央労働センター 小ホール	・平成 31 年度ひょうご発達障害者支援センター 事業報告 ・平成 31 年度ひょうご発達障害者支援センター 事業報告 ブランチ ・令和 2 年度 事業計画についての意見 回答 ・平成 31 年度センター主催(共催)研修会収支報告 ・討議「16 歳～18 歳(高校生)年代への支援について」 ・人事について	19 団体 38 名
	第2回	2021.3.22	オンライン	・令和 3 年度ひょうご発達障害者支援センター事業計画	16 団体

		(ZOOM)	・令和3年度ひょうご発達障害者支援センター事業計画 ランチ ・行政機関による令和3年度 事業施策 (障害福祉課、県立こども発達支援センター、教育委員会、兵庫労働局) ・令和3年度 連絡協議会委員 公募の保護者について	30名
--	--	--------	--	-----

②ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 27 件)

主な会議名	役割	担当
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田
全日本自閉症支援者協会	理事	和田
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員	和田
発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 医療部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 教育部会	委員	和田
障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員	和田
発達障害者等就労支援連絡協議会	委員	和田
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員	和田
広域特別支援教育連携協議会	委員	和田
特別支援学校就職支援推進会議	委員	和田
通級指導専門性充実検討会議	委員	和田
ひきこもり対策検討委員会	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員	杉原

③ランチ業務調整会議 (年 9 回)

センター各ランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。兵庫県障害福祉課も参加した。3月18日に実施予定だった10回目に関しては、新型コロナウイルスの感染予防の為、中止とした。

(4) 県委託事業

事業名	内容
発達障害実務者養成講座	発達障害実務者養成講座(児童期、成人期)の実施

II ブランチ機能(東播磨 淡路圏域)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 市町相談支援窓口機関への支援の充実

淡路地域 月2回の巡回相談を継続して行い、大半の事例が市の窓口もしくは相談員同席のもとで相談を行っている。継続相談は各市の方で行ってもらいながら、支援の経過や対応方法の助言を巡回相談の際に行うようにしている。

東播磨地域 支援調整会議を通して、市町窓口担当職員と新規事例に対し対応方法の検討、助言を行った。また、既相談事例に対しても、支援方法の助言を行うなど、市町窓口の支援力向上を図る取り組みを行った。なお、研修会は新型コロナウイルス感染拡大の状況から実施せず。

(2) 家族支援の充実

- ・ひきこもりの家族支援プログラムである CRAFT を 2 家族に対して実施した。
- ・高校生年代の家族のグループ活動では、進学をテーマにした保護者グループとして、他県で一人暮らしをしながら大学に通っている当事者やその保護者の話を聞く会を設けた。お互いに励ましあったり、対応を再確認される様子も見受けられた。
- ・支援ニーズの高い事例の中でも、家族が本人にどのように関わればよいかを求められる相談が多い。本人の来所がなく相談が始まるが、継続相談の中で、本人の来所が可能になることが見られるようになる事例もある。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発 研修

① 研修

○実施回数(実 0 回 延 0 回 参加者数 0 人)

※ペアレントメンター講演会 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

② 講師派遣

○実施回数(延 3 件 延参加人数 90 人)

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.15	アシストワン保護者会「発達障害のある人の就労について」	55	和田	東播磨
12.25	NPO 法人 淡路障害者連絡会 「発達障害のある人のストレス対処について」	10	和田	淡路

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
R3.1.18	播磨町自立支援協議会はたらく部会「就労についての情報提供会」	25	和田	東播磨

(2) コンサルテーション

① 関係機関へのコンサルテーション 実施回数(実 5 か所 延 12 件)

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関	圏域	日程	担当
加古川市 神吉中学校	東播磨	11.11、11.17、R3.3.5	杉原
播磨町 播磨中学校		8.4、12.28	杉原
稲美町 いなみ野特別支援学校		R3.2.19	杉原
淡路市 石屋小学校	淡路	R3.2.9、3.9	杉原 西窪
神戸市 PERKS 六甲	神戸	R3.1.8、1.15、1.22	和田 山内

② 家庭療育支援講座 実施回数(実 1 か所 延 8 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
こども支援センター スマイル	東播磨	7.13、9.11、9.25、10.9、10.23、11.13、11.27、12.18	山内

(3)相談支援

①相談・発達・就労支援状況

あ 相談支援 (実 276 人、延 1,369 件) (昨年度:実 337 人、延 1,326 件)

前年度に比べ、実人数が 60 人強減少している。一方、延べ件数は 40 件強増加しており、一人あたりの相談件数が増えていることが考えられる。年齢別の割合は、19 歳～39 歳と 16 歳～18 歳が増加しており、幼児期、小学生が減少した。

就学前の児童では何らかの診断を受けられて相談に至るケースが多く、内容は身辺自立やかんしゃくなどに対する児への関わり方を主とするものが多かった。また数として多くはないものの福祉サービス利用について、就学に向けサポートブックの内容を検討する相談も見られている。小学校低学年での相談では主に集団における適応がテーマとなることが多く、登校渋りや教室の飛び出しなどの行動として現れているケースが多かった。背景に学習上の躓きや他者の表情を読み取る力の弱さが見られることも多く、保護者とその点を共有し配慮を必要とする点や関わり方のポイントについて助言を行っている。

小学生高学年や中学生については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校が 2 か月休校になったことや学校行事が概ね無かったことで、行事等が苦手な子ども達への対応の相談は減少した。一方で、“テストの点が伸び悩む”ことや“学校生活への適応が難しい”という主訴は変わらず見られた。子どもの得意不得意についてアセスメントを行い、親子それぞれに結果を報告し、対応方法も一緒に検討した。また、ゲームの時間を巡って保護者とぶつかる場合の対応を求められることも重なった。

成人期では、ひきこもり状態に関する家族からの相談やひきこもり状態での本人からの相談や外に出ていくことを視野にした福祉サービス等の行き先についての相談を行った。また、親が認知症等を発症したことでの介護や対応に困惑する相談や夫婦間での関わりについての相談もあった。その他に、福祉サービスを継続して利用している方や退職を機に新たに利用し始めた方に対しての現状の相談や大学生活(学業や就職等)に関する相談もあった。

い 発達支援 (実 26 人、延 96 件) (昨年度:実 60 人、延 232 件)

前年度より実人数、述べ件数共に減少している。幼児～小学校低学年の児童においては日常生活上のつまずきとなりやすい学習や対人関係(ソーシャルスキル)に焦点を当てた支援を行っている。背景に「見る」「聞く」「覚える」「描く」などの力の弱さが考えられることもあり、方法としてそれらの査定も含めた課題に取り組んでいただき、内容を保護者と検討する機会に充てるようにした。課題に取り組んでもらう際には保護者に対し目的とするところを説明し、実際に取り組む様子や出来上がったものを見ていただき、それに対し見立てや支援方法をお伝えしている。保護者にとっても納得度が高く、支援方法についても具体的なイメージを持っていたため、家庭で実践されているケースもあった。

不登校の事例で既存の福祉サービスに繋がらない方や既存の福祉サービス事業所ではうまく行かない方について、定期的来所が継続できる場所として利用した。クローバーでの様子は所属先にも報告するようにしている。

高校生年代では、進学する子どもの保護者グループを実施した。遠方で一人で暮らす大学生の当事者に ZOOM を利用して発言してもらった。大学生の保護者には、幼少期から準備していたこと等を発言してもらった。先輩の保護者の話を聞いて、生活面の自立も大切と考えられ、今年度は自宅からは通えない遠方の大学への進学したり、一人暮らしに挑戦し始めた方も見られた。

性的問題行動のある事例に対して、ワークと振り返りを行った。

成人期の事例では、相談者の中から必要と思われる人に対し、ストレスマネジメント講座、クローバーCRAFTプログラムを実施した。

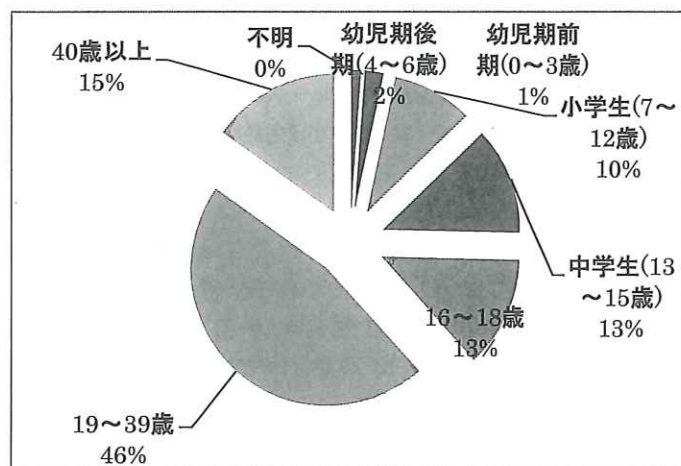
う 就労支援 (実 40 人 延 186 件) (昨年度:実 51 人 延 203 件)

昨年度に比べ、実・延件数ともに減少していた。相談内容としては、既就職者への職場定着に向けての相談や今後の就労の方向性についての相談が多かった。障害開示をしている事例では、職場に訪問をして職場の人からの話を聞いた上で、確認した情報を本人に伝えたり、他機関の支援者との情報共有を行った。障害非開示の事例では、定期的な来所相談を通して、会社での困りごとを整理し、その中でも出来ていることがあれば肯定的に言語化をして伝えた上で、具体的な対応方法を一緒に検討した。

就労を目指している事例では、職能評価を受けて自身の作業面での得手不得手と向き合うことや、福祉サービスの利用をメリット／デメリットを踏まえて検討した。

(参考データ)

(a)相談支援(実人数)



(b)発達支援(実人数)

幼児期前期(0~3歳)	1	4
幼児期後期(4~6歳)	3	12
小学生(7~12歳)	7	27
中学生(13~15歳)	4	15
16~18歳	8	31
19~39歳	3	12
40歳以上	0	0
不明	0	0
合計	26	100

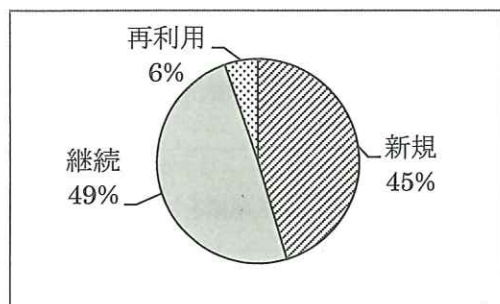
(c)就労支援(実人数)

18歳以下	1
19~39歳	24
40歳以上	15
不明	0
合計	40

(d)ライフステージごとの障害種別(相談支援実人数)

障害種別	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	1	0	2	0	1	2	2	8
自閉症(知的障害を伴う者)	0	1	2	3	4	7	1	18
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	2	4	0	3	6	0	15
アスペルガー症候群	0	0	0	0	2	10	5	17
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	0	0	2	10	4	8	1	25
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	0	0	1	1	17	1	20
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	1	0	1	5	2	17	3	29
AD/HD	0	0	3	1	6	10	5	25
LD	0	0	0	0	0	1	0	1
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	0	0	0	0	2	9	2	13
不明(未診断も含む)	1	3	12	15	11	41	22	105
合計	3	6	26	35	36	128	42	276
「不明(未診断も含む)」割合	33%	50%	46%	43%	31%	32%	52%	38%

(e)新規・継続・再利用の内訳(相談支援 実人数)



(f)年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0～6 歳)	小学校 (7～12 歳)	中・高生 (13～18 歳)	19 歳以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	0	4	1	15
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	34	73	248	456
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	0	1	5	17
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	1	0	4	23
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	1	28	174	209
進路や将来の生活に関する相談をしたい	3	4	48	77
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	0	1	61	125
今後の就労について相談したい	0	0	1	23
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	2	17
その他	2	8	62	151

(4) 機関連携

①発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席

実施回数(延 件)

会議名	役割	担当
兵庫県 播磨東地域特別支援教育連携協議会	委員	和田
加古川市 障害者雇用連絡会議	委員	和田
障害者自立支援協議会 子ども部会	委員	杉原
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議	委員	和田
教育委員会	専門家チーム委員	杉原

②個別調整会議 実施回数(延 27 件)

成人期 16歳～18歳の順で多かった。主訴は「対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)」が一番多く、会議の中で対応困難な状況での支援について協議していることが多いと分かる。会議の中では、支援機関がどのように対応するかの助言が求められることが多い。

③付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイサービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例（自閉症、軽度知的障害）
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

(5) 調査・研究

- ・触法行為や他害行為が見られる事例に対する支援実態調査：
発達障害者支援センター、ランチでの既相談事例から、触法行為、他害行為が現れている事例の実態把握を行った。今後は、触法行為、他害行為が現れていない事例との比較を行い、リスク要因と考えられるものを見出していく予定にしている。

Ⅲ 職員体制

1 相談時間 (月)～(金)の平日 9:00～17:00

2 担当

① センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	西窪 健太
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

管理責任者 坊垣 勝彦(あかりの家 副施設長 兼務)

3 職員研修

研修名	日付	受講者
こども発達支援センタースキルアップ研修	9.15	西窪
発達障害者支援センター全国連絡協議会 研修会	10.1～2	和田
強度行動障害従事者研修 実践研修 国研修 web	10.23	和田
県立こども発達支援センター 基礎研修 (実地)	11.16	西窪
発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会	12.19	和田、杉原、西窪

4 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
公認心理師	3	教諭	2
臨床心理士	3	WAIS-III知能検査研修受講	1
社会福祉主事	1	K-ABC II ベーシック講習会	1

2020 (R. 2) 年度

地域支援センター あいあむ 事業報告書

2021. 3. 31 現在

‘2020 (R. 2) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	’ 06 (H. 18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’ 13 (H. 25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネート事業	’ 07 (H. 19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’ 13 (H. 25). 6. 1	高砂市委託事業
7	加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約	’ 17 (H. 29). 9. 1	加古川市社会福祉協議会委託事業
8	高砂市障がい者基幹相談支援センター	’ 19 (R. 1). 4. 1	高砂市委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、8つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

今年度は新型コロナウイルス関連対応を年度当初から迫られ、国の緊急事態宣言(2020. 4. 7)に伴い2020. 4. 15より在宅テレワークを導入し、感染拡大防止に努めてきた。制約された暮らしにおけるご本人、ご家族のストレスは年間を通して増加し様々なジレンマの中で、福祉サービスの調整などを行いながら在宅生活に寄り添ってきた。

どんな状況に置かれても「本人中心支援」を念頭に、出来る範囲での支援をスタッフみんなで協力して取り組んだ。新型コロナウイルス対応により学んだ様々な視点を今後も生かし、今まで見えていなかった部分を見つめ直し、邁進していきたいと思う。

I 実施事業

1 東播磨臨海地域相談支援事業(2市2町相談支援事業)

		加古川市 0件(0人)	高砂市 0件(0人)	播磨町 7件(6人)	稲美町 42件(25人)	計 49件(31人)
相談 形態	訪問	0件	0件	0件	1件	1件
	来所	0件	0件	6件	11件	17件
	同行訪問	0件	0件	0件	0件	0件
	電話	0件	0件	1件	6件	7件
	メール	0件	0件	0件	0件	0件
	ケア会議	0件	0件	0件	0件	0件
	関係機関	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	24件	24件

- ・ 06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始
- ・ 週1日。播磨町は福祉会館・稲美町は社会福祉協議会で2時間窓口相談実施。
- ・ 新型コロナ感染で緊急事態宣言発令時は当法人内事務所にて電話対応のため待機し実施。
- ・ 基幹相談支援センター開設に伴い加古川市は29年9月末で終了。高砂市は平成31年3月末で終了

2 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 103名(高砂市77名 加古川市25名 播磨町1名)

3 計画相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 356名
(高砂市: 192名 加古川市103名 播磨町14名 稲美町13名 神戸市9名 加東市1名
姫路市: 18名 小野市: 1名 豊岡市: 1名 名古屋: 1名 尼崎市: 2名 大津市: 1名)

4 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)

- (1) 地域移行支援 実施者 2名 (加古川市2名)
 (2) 地域定着支援 実施者 6名 (加古川市3名、高砂市3名)

5 障害者等相談支援コーディネート事業 (県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)

- (1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区 分		相談・指導等の方法			合 計
		相談支援ケースへの対応等	相談支援体制等の構築・運営	その他	
相談関係	① 指定相談支援事業所従事者	114	159	39	312
	② 市町職員（障害福祉担当課に限る）	68	7	12	87
	③ 記以外の障害者の相談支援関係者	85	52	3	140
④ 保健・福祉関係者（市町職員含む）		93	9	10	112
⑤ 教育関係者（市町職員含む）		14	9	5	28
⑥ 就労関係者（ハローワーク等行政関係者）		1	0	0	1
⑦ 企業等		0	0	0	0
⑧ 障害福祉サービス事業者等		54	38	41	133
⑨ その他（ケース会議、刑務所職員など）		71	36	29	136
⑩ 障害者本人		1	1	4	6
⑪ 障害者の家族等		1	2	0	3
合 計		502	313	143	958

(注) 件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内 容	参加者数
10/16 チーム支援ネット第1回 全体研修会	加古川総合福祉 会館 大ホール	講演 『居宅介護 (重度訪問介護) の概要と現状』 講師：あじさいのもり明石 原 泰久 氏	55名、 相談支援事業所、 教員

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種障害者児団体・ネットワーク会議 (雇用・地域生活・相談事業 権利擁護) に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会 (準備会含む) への参加 (年間42回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営 (研修会、連絡会)
- ⑥ 東播磨圏域3市2町基幹相談支援センター連絡会 (2回 開催)

6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業 (高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託)

(1) 会議活動回数

- ①全体会1回 ②運営会議1回 ③相談支援専門員による地域課題抽出の会1回④こども部会4回 ⑤事業所ワーキング1回 ⑥くらし部会4回 ⑦ヘルパー事業所連絡会2回 ⑨事務局会議9回 研修会1回 計30回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など

(全体会は除く)

(2) 高砂市福祉マップ 障がい者編 更新作業

(3) ホームページ管理・更新等

- ①ホームページチラシ作成

- ②ホームページ掲載 計 39件

※参考 ホームページ閲覧数 125,815件/年>

- ③SNS掲載 (Instagram、Facebook、LINE@) 各18件

7 加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約

(加古川社協新規事業として17. 9. 1あかりの家に委託)

平成29年10月に開設された加古川市障がい者基幹相談支援センターにおける職員への助言(SV)、ネットワーク会議への助言・研修講師等を定期的に行う。

(1) 基幹センター職員対象 相談支援SV 計10回

8 高砂市障がい者基幹相談支援センター(高砂市新規事業として19. 4. 1あかりの家に委託)

別紙事業報告 参照

Ⅱ 職員研修

1 職員研修内容(基幹センター職員は別紙記載)

月	研修内容	研修地	参加者
9	○チーム支援ネット研修会『居宅介護(重度訪問介護)の概要と現状』	加古川市	濱口、西野、石井、春名 藤田、梶原、手納
10	○地域移行研修会	加古川市	濱口 藤田 西野

Ⅲ 実習受入

(1) 学生、施設職員等

新型コロナウイルスの影響のため、20年度は受け入れなし。

Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等(基幹センター職員は別紙記載)

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6~	濱口
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事 事務局長	13. 11~ 17. 6~	濱口
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5~	濱口、西野、石井、松原、梶原、 春名、藤田、富木、金鹿
加古川雇用(連絡)調整会	委員	07. 11~	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5~	濱口
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9~	濱口
高砂市 権利擁護センター設置検討委員会	委員	19. 5~	濱口
加古川市 成年後見制度利用促進及び権利 擁護制度検討委員会	委員	19. 5~	濱口
兵庫県障害福祉審議会「情報」分科会	委員	20. 1~7	濱口
加古川市社会福祉協議会「第4期地域福祉推 進計画」策定委員会	委員	20. 4. 1 ~21. 3	濱口
高砂市障害者計画等策定委員会	委員	20. 7~3	濱口
播磨町防災と福祉の連携促進事業検討委員会	委員	21. 2~	濱口

Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等(基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8~	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12~	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議メンバー	13. 12~	濱口
加古川市 障がい者自立支援協議会		全体会 委員	09. 12~	濱口
		くらし、こども、しごと	10. 5~	濱口
		相談支援ネット、差別解消	18. 4~	濱口

播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらす部会委員/オブザーバー	10. 7～	西野 / 濱口
		はたらく部会員/オブザーバー	10. 9～	春名 / 濱口
		全体会オブザーバー	11. 4～	濱口
稲美町	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		各部会 オブザーバー	11. 4～	濱口
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	濱口
		運営会議 委員	10. 6～	濱口
		くらし部会オブザーバー	12. 4～	濱口、西野
		ヘルパー事業所連絡会	19. 5～	石井、濱口
		こども部会オブザーバー	12. 5～	濱口、松原
		課題抽出の会、高砂コンサルタ	17. 3～	相談員全員
		本人会 高砂ユニナビ	18. ～	随時

Ⅵ 講師、発表、寄稿等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	3クール×5日＝15日	講師 司会他	濱口
	兵庫県医療的ケア児等 Co. 養成研修	3 / 4、3 / 30		
	兵庫県相談支援基礎研修	3 / 8		
厚労省	令和2年度相談支援従事者指導者養成研修 ZOOM 「災害時支援のための地域自立支援協議会機能を活用した地域連携」	2 / 11	講師等	濱口
稲美町隣保館人権研修「障害の理解について～Mさんの暮らしから～」×2		8 / 2	講師等	濱口
いなみ野特別支援学校進路研修会「学校と福祉の連携について」		8 / 20	講師	濱口
高砂公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		8 / 24	講師等	濱口
米田公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		8 / 26	講師等	濱口
中央公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		8 / 31	講師等	濱口
ささゆり会研修会「障害福祉のあれこれ」		9 / 16	講師	濱口
阿弥陀公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		9 / 17	講師等	濱口
令和2年度兵庫県知的障害相談員（新任）研修会「相談員の心構え」		10 / 12	講師	濱口
加古川市手をつなぐ育成会 本人会 「これからの暮らし」		10 / 16	講師	濱口
加古川市基幹センター相談支援部会研修会 「障害福祉サービスで行う地域移行支援」		10 / 20	講師	濱口
高砂市虐待防止研修「虐待防止について」		10 / 22	補助	濱口
つつじの家 法人研修会「虐待防止について」		11 / 7	講師	濱口
兵庫県手をつなぐ育成会 地域生活援助者養成講座「支援の基本」		12 / 25	講師	濱口
加古川市男女共同参画センター 防災研修「障害のある方の特性」		12 / 25	講師	濱口
加古川市自立支援協議会全体会「総合支援法で個別給付された”地域移行”について～」		2 / 9	講師	濱口
高砂市手をつなぐ育成会 「もしものことがあったら、今からお子さんの暮らしについて考えよう」		3 / 19	講師	濱口
第27回あかりの家事例研究会冊子「新型コロナウイルスがもたらした地域生活支援の再考について」		3 / 14	寄稿	濱口

2020(令和2)年度

高砂市障がい者基幹相談支援センターみんと 事業報告書

2021.3.31 現在

みんとは今年度、専任の相談支援専門員2名と週1日の兼任の相談員1名で2年目の実践を積み上げた。ここに2年目の実践を報告する。

I 総合相談

1 相談支援を行った障害(児)者の人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
障がい者	身体障害	13	4	13	25	24	34	36	36	22	24	20	33	284	7%
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0%
	知的障害	20	104	107	110	121	122	93	72	128	85	80	87	1129	26%
	精神障害	46	30	64	29	41	55	99	108	125	123	107	83	910	21%
	発達障害	82	28	27	27	25	22	23	9	2	17	28	37	327	8%
	高次脳機能障害	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0%
	その他	18	17	34	51	21	41	24	16	11	30	16	34	313	7%
	小 計	183	183	245	242	232	274	275	241	288	280	252	274	2969	69%
障がい児	身体障害	0	0	1	9	0	5	8	5	0	3	0	0	31	1%
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	知的障害	36	22	46	24	49	32	123	41	77	30	32	32	544	13%
	精神障害	0	0	1	1	1	0	6	11	4	37	92	75	228	5%
	発達障害	12	16	19	26	61	25	34	43	39	82	28	81	466	11%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	6	1	0	0	6	0	1	16	2	2	0	1	35	1%
	小 計	54	39	67	60	117	62	172	116	122	154	152	189	1304	31%
合 計		237	222	312	302	349	336	447	357	410	434	404	463	4273	100%

2 相談者種別

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3月
当事者	本人	38	36	50	59	57	80	69	62	76	106	93	109	835	20%
	家族・親族	17	26	44	43	63	51	82	65	75	79	97	80	722	17%
	障がい者団体	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	2	6	0%
支援機関	相談支援事業所	34	57	47	42	50	53	67	37	33	58	53	52	583	14%
	サービス事業所	55	48	69	58	40	34	53	38	66	62	49	64	636	15%
	専門支援機関	5	14	17	12	30	20	63	42	46	33	17	15	314	7%
市	障がい・地域福祉課	17	8	8	8	7	8	10	12	13	7	13	34	145	3%
	高年介護課	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0%
	生活福祉課	2	0	2	2	1	5	10	0	2	3	3	17	47	1%
	その他の課	1	1	7	9	2	4	2	2	3	4	3	6	44	1%
関係機関ほか	地域包括	12	1	4	8	5	8	1	2	5	2	3	2	53	1%
	健康福祉事務所	7	5	8	7	6	13	19	20	8	6	6	7	112	3%
	教育機関	16	5	16	11	45	24	51	23	32	25	30	36	314	7%
	医療機関	2	0	4	1	5	0	6	24	35	12	17	5	111	3%
	民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	31	21	35	42	37	34	14	30	16	36	20	34	350	8%
合 計		237	222	312	302	349	336	447	357	410	434	404	463	4273	100%

3 支援方法

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3月
訪問		3	3	12	23	15	16	19	12	11	24	10	11	159	4%
来所相談 (市役所相談室)		5 (3)	2 (1)	9 (5)	13 (6)	7 (3)	15 (8)	8 (4)	21 (9)	12 (4)	14 (0)	16 (3)	13 (1)	135	3%
同行		2	1	1	5	6	3	2	8	8	3	1	10	50	1%
電話・FAX		193	161	218	196	236	191	271	226	269	302	274	339	2876	67%
電子メール		24	44	63	54	77	103	139	79	96	87	97	79	942	22%
個別支援会議		7	6	3	6	5	6	7	8	8	4	2	3	65	2%
関係機関との調整		2	3	4	2	0	0	0	0	1	0	0	4	16	0%
その他		1	2	2	3	3	2	1	3	5	0	4	4	30	1%
合 計		237	222	312	302	349	336	447	357	410	434	404	463	4273	100%

4 支援内容

	(件)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
① 福祉サービスの利用に関する支援	115	97	119	132	83	112	109	149	192	183	148	192	1631
② 障害や病状の理解に関する支援	16	6	22	28	43	26	44	18	26	63	25	11	328
③ 健康・医療に関する支援	6	4	15	5	14	23	35	11	33	25	18	24	213
④ 不安解消・情緒安定に関する支援	21	32	24	24	44	24	61	21	17	25	33	26	352
⑤ 保育・教育に関する支援	29	39	33	32	71	48	107	72	104	77	79	79	770
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	3	4	30	18	27	23	11	7	9	11	21	32	196
⑦ 家計・経済に関する支援	30	16	24	35	34	40	40	26	2	15	41	12	315
⑧ 生活技術に関する支援	1	9	2	3	3	3	3	8	5	6	1	20	64
⑨ 就労に関する支援	8	4	11	6	10	15	21	22	6	15	10	14	142
⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	1	0	10	3	10	2	3	1	0	1	3	5	39
⑪ 権利擁護に関する支援	6	6	1	12	3	17	10	16	12	5	17	22	127
⑫ その他（社会資源の活用など）	1	5	21	4	7	3	3	6	4	8	8	26	96
（内 訳）													
介護保険に関すること			2						1				3
生活保護に関すること													0
虐待防止に関すること						3							3
成年後見制度に関すること								3					3
その他	1	5	19	4	7	0	3	3	3	8	8	26	87
合 計	237	222	312	302	349	336	447	357	410	434	404	463	4273

Ⅱ 相談支援体制の整備

高砂コンサルタの定期開催は、今年度、新型コロナウイルス感染症の発生と緊急事態宣言発令のため第1回目の開催は8月となる。4回開催し、そのうち2回は研修会を実施する。今年度の研修会は相談支援専門員が学びたいこと、知りたいことの要望が高かったテーマでおこなう。指定相談支援事業者等に対する情報提供と専門的助言も初年度に比べて件数が増えている。高砂コンサルタを通して培われてきた相談支援事業所との相互の信頼関係と、みんなが実践を通して積み上げていった経験が少しでも相談支援専門員に役に立てるよう今後も力を付けていきたい。

1 開催月日と研修内容と出席人数

月日	議 題	会場・出席者	参 加 者
第1回 8/11	○自己紹介 ○高砂コンサルタについて ○グループワーク ～コロナの影響、第2波が来る前に～ ○高砂市からのお願い ○事業所案内(5事業所) あいりす、もりいぶ、ドレミ就労支援センター さあくる。、ナインカレッジ	ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2 越田・川崎・桂	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい・地域福祉課障害者支援係 2名 合計20名
第2回 10/13	○研修「訪問看護について」 講師：訪問看護ステーション笑楽 所長 鈴木敬子氏 看護師・作業療法士：萬代博邦氏 ○高砂市からのお願い ○事業所案内(3事業所) なるい、ソーシャルインクルー播磨町 障害者ケアセンターかんの	ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2 越田・川崎・桂	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい・地域福祉課障害者支援係 2名 合計20名
第3回 8/11	○研修 「精神障害のある方と接すること」 講師：NPO法人 こころ・あんしんLight 理事 久下 明美さん ○事業所紹介(5事業所) Leaf、LITALICO ワークス姫路、ハバナケア高畑 ドレミ生活介護支援センター、Step	ユーアイ帆っと センター 1F交流スペース1・2 越田・川崎・桂	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい・地域福祉課障害者支援係 2名 合計20名
第4回 3/29	○事業所紹介(5事業所) サブカルビジネスセンター、はーとふる、つみき ルミエール、いっぽいっぽ ○加算について 資料 ・相談支援事業所「きほんのき！」 ・基本的なサービス提供の流れ ・2019年度 計画相談報酬改定加算確認表 ・請求加算書式(国様式)	ユーアイ帆っと センター 1F交流スペース1・2・3 越田・川崎・桂	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい・地域福祉課障害者支援係 2名 合計20名

2 指定相談支援事業者等に対する情報提供・専門的助言

		個別支援に関する相談	事業運営に関する相談	専門機関紹介等の情報提供	その他	合 計
1	特定相談支援事業者・障がい児相談支援事業者	25	1	0	6	32
2	一般相談支援事業者	12	0	0	1	13
3	障がい福祉サービス事業者	6	13	2	1	22
4	その他	24	3	2	7	36
	合 計	67	17	4	15	103

Ⅲ 権利擁護・虐待の防止

権利擁護全般では年間127件の相談を受付けた。高砂市社会福祉協議会主催の権利擁護センター設置検討委員会の委員委嘱を受け会議に参画する。又、高砂市地域包括主催の成年後見調整会議を毎月傍聴して基幹センターとして実践に役立つ学びを積み上げた。

Ⅳ 障がい者自立支援協議会の参画

今年度はコロナウイルス感染防止により開催できなかった部会が多くなった。基幹センターみんとは、自立支援協議会と協働し、“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”づくりに向けて、関係機関と連携しながら地域の推進に努めていきたい。

会議・活動	分類	参加者	実施日
全体会			2021. 2/19
運営会議		越田	2020. 4/16 開催中止※
専門部会	くらし部会	川崎	2020. 6/4 開催中止※、8/6、10/8、11/30 講演「コロナウイルス感染防止学習講演会」、2/4 開催中止※
	こども部会	越田	2020. 5/12 開催中止※、7/14、9/8、 2021. 1/12 書面開催※
ワーキング	課題抽出の会	越田	2020. 8/28
	こども事業所	越田	2020. 4/22 開催中止※、11/25、2021. 2/3 開催中止※
	ヘルパー事業所連絡会	川崎	2020. 5/21 開催中止※、8/20、11/19、 2021. 2/18 開催中止※

その他	本人会		越田・川崎・桂	新型コロナウイルス感染予防の為延期
	高砂ユニ	サッカー教室	越田	新型コロナウイルス感染予防の為延期
	N A V I	映画上映会	越田・川崎・桂	新型コロナウイルス感染予防の為延期

※新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ開催中止

以上

その他 研修会参加・研修講師

月/日	研修名	出席者（講師）
9/10	ピアサポーター	越田・川崎
9/22	虐待研修	越田
11/6	地域移行研修	越田
11/13	基幹相談支援研修	越田・川崎
12/9	フォローアップ研修	越田・川崎
12/10	地域移行研修	川崎・越田
2ヶ月毎/1年間	加古川雇用連絡調整会議	越田

おわりに

今年度、新型コロナウイルス感染症の発生と緊急事態宣言の発令の経験は、人の暮らし、障がいをもつ人の暮らしについて、一から考え直す事態であった。この一年、地域の人々のなかで基幹センターとして何ができるか、何をしなければいけないか考え続けた一年であった。この地域に住む人の暮らしに、そして今をともに生きる人々のなかに、みんなが存在できるように来年度へ実践を繋げていきたい。

以上

2020（令和2）年度

多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告

2021. 3. 31現在

《Ⅰ 沿革》

2003（平成15）年 4月 1日 知的障害者通所授産施設ワークホーム高砂 開設
 2012（平成24）年 1月 1日 多機能型事業所（生活介護、就労継続B型）に移行
 2020（令和 2）年10月19日 納豆工房なっとこちゃん（従たる事業所）開設

《Ⅱ 利用者状況》

1 定員と契約者数

（単位：人）

事業種別	定 員	契約者数
生活介護事業	主たる事業所（クリーニング） 6	6
	従たる事業所（納豆工房） 6	7
	小計 12	13
就労継続B型事業	主たる事業所（クリーニング） 18	20
	従たる事業所（納豆工房） 10	9
	小計 28	29
合計 40		42

2 市町別契約者数

（単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	6	18	24
加古川市	1	4	5
播磨町	1	2	3
小野市	0	1	1
姫路市	5	4	9
合計	13	29	42

3 利用者年齢構成

（1）生活介護事業

（単位：人）

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合 計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	
男 性	0	2	1	0	1	2	3	2	0	11
女 性	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
合 計	0	2	1	0	1	3	3	3	0	13

	男 性	女 性
最少年齢	22歳0か月	40歳0か月
最高年齢	54歳4か月	51歳5か月
平均年齢	39歳7か月	45歳9か月
男女平均年齢	40歳7か月	

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	
男性	1	0	3	8	5	2	1	0	1	21
女性	0	0	0	0	1	5	2	0	0	8
合計	1	0	3	8	6	7	3	0	1	29

	男性	女性
最少年齢	19歳11か月	38歳4か月
最高年齢	57歳0か月	46歳10か月
平均年齢	35歳4か月	42歳3か月
男女平均年齢	37歳3か月	

4 利用者月別実人員・延べ人数

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	164
延人員	284	259	257	309	286	289	305	265	263	264	250	281	3,312

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	28	28	28	28	28	28	28	28	29	29	29	29	340
延人員	562	553	569	628	548	591	596	551	587	581	548	633	6,947

5 入退所・変更契約の状況

(1) 生活介護事業・・・サービス変更退所 1名

(2) 就労継続B型事業・・・サービス変更入所 1名

※生活介護の利用者がB型事業に変更となった

6 障害支援区分

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	0	4	2	6
加古川市	0	0	1	0	1
播磨町	0	1	0	0	1
姫路市	0	2	1	2	5
合計	0	3	6	4	13

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	6	1	3	5	1	2	0	18
加古川市	0	0	1	2	1	0	0	4
播磨町	0	0	2	0	0	0	0	2
姫路市	2	0	0	2	0	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計	8	0	6	9	2	3	0	29

7 知的障害の程度(「障害者(療育)手帳」の判定による)

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	17	11	4	0	32
女性	7	3	0	0	10
計	24	14	4	0	42
比率	57%	33%	10%	0%	100%

8 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類を基に集計)

区分	男 性	女 性	計
人員	17人/32人	2人/10人	19人/42人
比率	53.1%	20%	45.2%

9 その他の障害、てんかん

(単位:人)

区 分		男 性	女 性	小計	合計
身体	肢体不自由	1(2種6級)	0	1	2
	難聴	1(1種2級)	0	1	
精神科薬	てんかん	4	0	4	4
延べ人数		6	0	6	6

10 利用者の通所方法

(単位:人)

	徒歩	自転車	バス	J R	バスとJ R	山陽電車	付き添い通所
男性	11	6	0	3	0	1	11
女性	2	1	0	0	0	3	4
計	13	7	0	3	0	4	15

《Ⅲ 生活支援》

1 一日のスケジュール（日課の基本）

午前 8:45 来所、朝の会 ⇒ 9:00 作業開始 ⇒ 10:30 午前休息 ⇒
10:45 作業開始 ⇒ 12:00 昼休憩（昼食・歯磨き、散歩）
午後 13:00 作業開始 ⇒ 15:00 休憩（夏はスポーツ飲料）
15:15 作業開始 ⇒ 16:50 作業終了、終りの会
17:00 帰宅

2 昼休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は「多目的室（食堂兼休憩室）」など各自の好みの場所で自由にとってもらった。しかし、自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から、多目的室に固定の席を設けるなどの工夫を行った。

3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルスの感染対策として、休憩時間を2回に分けて密集を避けることや、常時窓を開けての換気、空気清浄機やオゾン発生機の設置、また、机にパーテーションを設置するなどの対策を行った。その他にも、免疫力の向上や気分転換、健康維持を目的として、毎日10分程度のウォーキング活動も取り入れた。

4 水分補給について

夏場の熱中症対策（5月～10月）として、年間通しての「麦茶」提供に加えて毎日500mlのスポーツ飲料（保護者会から提供していただいた）を全利用者、職員に提供した。また、利用者の水分摂取量を把握しやすくするため、500mlのウォーターボトルを全ての利用者に提供した。

5 作業以外の活動（クラブ活動・サークル活動など）

（1）料理クラブ

新型コロナウイルスの影響により、本年度は活動を全て見合わせた。

（2）余暇活動など

余暇活動の一環として、水曜日の15:00～16:30の時間を利用して、季節行事を実施した。新型コロナウイルスの影響で、例年通りの余暇活動を実施する事が難しく、中止となる行事もあった。納豆工房「なっとこちゃん」については、オープン前に利用者全員で見学会を実施した。

（3）一泊旅行

新型コロナウイルスの影響で中止

（4）のじぎくスポーツ大会

新型コロナウイルスの影響で中止

（5）ばんたん親善運動会

新型コロナウイルスの影響で中止

（6）ばんたんゆうあい文化祭

新型コロナウイルスの影響で中止

（7）おつかれさん会

3月24日に1年間の締めくくりとして「利用者おつかれさん会」を実施し職員が製作したDVDを上映、利用者全員で鑑賞した。

(8) 実施した主な行事

4月	お花見会（天川東公園）
6月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け）
7月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け） うちわ作り（利用者の季節行事）
9月	納豆工房「なっとこちゃん」見学会（利用者向け）
10月	納豆工房「なっとこちゃん」オープン、保護者内覧会（保護者行事と共催）
12月	保護者クリスマス会（WH・納豆工房にて 保護者会が用意した弁当を提供）
3月	利用者お疲れさん会（DVDの鑑賞）

《Ⅲ 利用者支援、作業支援》

1 ワークホーム高砂の利用者支援と作業支援の基本

以下の（１）～（５）を基本に支援を行った。

- （１） 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行うこと。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にすること。
- （２） 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組むこと。特に、一人暮らしの利用者については、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行うこと。
- （３） 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員が同席して年２回（６か月に一度）実施すること。
- （４） 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行うこと。
- （５） 作業支援の基本は、就労継続Ｂ型事業所だけではなく生活介護事業所においても、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、ステップアップを目指して「就労移行支援事業所」や「Ａ型事業所」「一般就労」を目指していくこと。
- （６） あかりの家との連携を図り、あかりの家利用者のＭさん、友愛の家利用者のＹさん、Ｋさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なくワークホーム高砂で働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行うこと。

2 作業内容

- （１） クリーニング作業（１０月１９日以降は、「主たる事業所」の位置づけ）
ゴトウ・アズ・プランニング社との連携（委託作業）によるクリーニング作業
- （２） 納豆製造作業等（１０月１９日以降は、「従たる事業所」の位置づけ）
「納豆工房なっとこちゃん」における納豆の製造・販売とショップ運営
- （３） その他作業
①洗車作業（２０２０年５月から試行） ②ウエスの販売 ③楠公園清掃作業

3 クリーニング作業の主な取り組み

- （１） 設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の４つに班分けを行い、利用者支援を実施してきたが、平成２９年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるような環境を整えるなど丁寧な支援に努めてきた。その結果、利

用者のできる作業が増え、作業効率も大幅に向上した。

- (2) 2020年度は「仕分け班」を完全に撤廃し、利用者、職員の分散が無くなり、効率的な作業を行うことができた。10月に「納豆工房なっとこちゃん」のオープンに伴い作業人員が大幅に減ったが、作業班にこだわらない横断的な作業方法が身についていたことから大きな混乱もなく作業を行うことができた。
- (3) 昨年同様に、利用者の作業リーダー制、休憩の交代制を導入し、利用者の自主性を伸ばす取り組みを進めた。
- (4) 昨年度から試行していた洗濯後の仕分けを4月から本格導入し、仕分け班を完全撤廃した。これによりワークホーム高砂の作業は完全に衛生区域のみとなった。
- (5) 作業時間については、16時45分作業終了、片付け、着替えを17時までに行うことが定着した。

(クリーニング作業 便宜上の班分け及び主な作業内容)

シーツ班	9人	シーツロール機等（シーツ乾燥・折りたたみ・結束等）投入、出荷管理
タオル班	8人	手作業によるタオルたたみ及び出荷管理
たたみ班	11人	衣類、布団、シーツ、タオル類のたたみ、包装及び出荷管理

※2020年3月23日より仕分け作業と「仕分け班」を廃止

4 クリーニング作業における協力企業との関係

- (1) クリーニング事業の協力企業・・・株式会社ゴトウ・アズ・プランニング

設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウ・アズ・プランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、平成22年にゴトウ・アズ・プランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウ・アズ・プランニングに変更となった。

- (2) ゴトウ・アズ・プランニングとの話し合いについて

2020年度は、前年度から引き続き、安杖社長（ゴトウ・アズ・プランニング）と齋藤施設長、長谷川副施設長、楠主任による現状の共有化と課題解決に向けた「経営会議」を計6回持った。また本年度から現場レベルの調整を行う「運営会議」を開催することとなり、計3回開催した。

(経営会議開催日)

第1回	2020年	6月	8日	第2回	2020年	7月	20日
第3回	2020年	9月	14日	第4回	2020年	11月	9日
第5回	2020年	12月	14日	第6回	2021年	1月	25日

(運営会議開催日)

第1回	2020年	4月	1日	第2回	2020年	7月	1日
第3回	2020年	11月	2日				

5 クリーニング作業環境の改善（継続的取り組み）

- (1) 平成25年度から暑さ対策としての作業環境改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- (2) 平成26年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- (3) 平成27年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- (4) 平成28年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯の

LED 化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。

- (5) 平成29年度は、工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。
- (6) 平成30年度は、仕分け班の作業服をつなぎ服に変更するなど感染症対策を積極的に行った。また、仕分け班作業場に固定式の扇風機を設置し、作業環境の改善を図った。
- (7) 令和元年度は、5S活動の一環として作業後の作業場清掃を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として仕分け作業を廃止する方向でGOTOと協議し、3月に試行し次年度からの本格実施に備えた。このことはワークホームの歴史にとっては画期的なことであり、利用者全員が衛生区域で作業することになるとともに、仕分け作業の重労働からも解放されることとなった。
- (8) 令和2年度はコロナ対策を徹底し、汚染区域、準汚染区域、清潔区域を分け玄関を変更した。その際、防寒対策のためアコーディオンカーテンを設置し、冬場の作業場温度を確保した。また、駐車場の安全対策の一環として、フェンス沿いに人工芝を設置した。

6 医療関連サービスマーク認定更新について

病院寝具を専門に洗濯するために必要な「医療関連サービスマーク」については、ワークホーム高砂開設時の平成15年度に初めて認定を受け、以降3年に一度の頻度で更新している。

本年度は、更新年で9月に書類審査、11月17日に現地調査を受け、2021年2月1日付けで更新を終えた。

7 納豆工房なっとこちゃん（納豆の製造、販売、ショップ運営）の主な取り組み

(1) 「納豆工房なっとこちゃん」の設置と特徴

2020年10月19日(月)、兵庫県の指定(ワークホーム高砂の従たる事業所)を受けて、高砂市曾根町に「納豆工房なっとこちゃん」を設置し、希望山荘敷地内にあったそれまでの納豆作業所を廃止した。事業所の機能としては、①納豆の製造を行う「作業場機能」 ②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」 ③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをとおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」を主なものとして位置付けている。

納豆工房では、生産量を増やす為に大型冷蔵庫と発酵機を増設したほか、エアーシャワーや滅菌庫などの新たな設備を取り入れ衛生面なども強化した。また、福祉アンテナショップでは、他事業所の商品を取り扱うことで事業所同士の交流が持て、利用者支援の情報交換も積極的に行えるようになった。また、パート職員を増やすことで、正規職員が利用者支援を行える環境が整い、製品のチェック体制を強化し、品質の維持・向上が図られる環境が整った。

12人	納豆の製造、販売、商品名「なっとこちゃん」、乾燥コンニャクの販売
-----	----------------------------------

(2) 納豆製造と販売などの主な取り組み

- ① 新商品である「作用もち大豆納豆」を納豆工房の立ち上げと同時に販売を開始した。
- ② 2020年6月より HACCP の義務化が開始され、2021年6月からは HACCP の導入と運用が完全義務化されることから、それに向けた準備や取り組みを実施した。
- ③ 2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務付けられたことから、バイオマス素材のレジ袋(無料配布可)に変更した。

- ④ ヤマダストアー6店舗に加え、新たに「新辻井店」での販売を開始した。また、新たにＪＡ兵庫西との取り引きを開始し「旬彩蔵」では「作用もち大豆納豆」を販売した。
- ⑤ ネット販売では、健康ライフで「なっとこちゃん」全５種類と期間限定で高島屋オンラインでの作用もち大豆１６個セットを販売した。また、「インスタグラム」を活用して販売促進を図るとともに、地元のケーブルテレビやＦＭ神戸の取材や出演をとおして広く「なっとこちゃん」を広報した。

⑥その他の出店・販売

○つながるマルシェ（セルフ主催）

２月８日（月）コープ姫路田寺 ２月１０日（水）コープ新多聞
 ２月１５日（月）コープ西神南 ２月１６日（火）コープ神吉、
 ２月２５日（木）２月２６日（金）コープ播磨、
 ３月 １日（月）コープ高砂 ３月１０日（水）コープデイズ神戸西、
 ３月２３日（火）コープ稲美

○+NUKUMORI（セルフ主催 神戸元町）

３月１３日（土） ３月２０日（土）

○宝殿マルシェ ３週間に一度土曜日に実施

８ その他作業（「洗車作業」「ウエス販売」「楠公園の清掃受託」）について

- 本年度５月から、クリーニング作業の商品が少ない時などを利用して、「洗車作業」を導入
 ○クリーニングの廃棄タオルをウエスとして販売
 ○高砂市からの委託により希望山荘東側の「楠公園」の清掃を実施

９ 作業収入と工賃支給

（単位：円）

	事 項	令和元年度	令和２年度	備 考
収 入	洗濯事業収入	19,138,176	19,518,904	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	納豆販売収入	4,193,281	8,809,878	自主生産事業
	公園清掃収入	62,500	62,500	高砂市からの委託料（楠公園清掃）
	その他収入		800	洗車作業等
	計	23,393,957	28,392,082	
支 出	工賃支給額	19,648,890	21,108,020	
	作業経費	3,014,325	6,222,962	賃借料・水道光熱費・納豆材料費等
	消費税	730,742	1,061,100	
	計	23,393,957	28,392,082	
収支差額		0	0	

１０ 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

- （１）工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づき支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年２回（４月、１０月）の工賃見直し評価を行い、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。
- （２）平成２８年度後期から始まった「業績賞与」については、２０２０年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から８４８，８７８円の支給が別途あった。

(3) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金については、8月、12月、4月に支給した。

(4) 工賃支払い実績

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	夏季一時	8月	9月
生活介護	358,430	329,740	326,650	391,040	120,000	361,200	362,570
就労B	925,810	907,010	925,160	1,007,030	270,000	879,620	952,850
計	1,284,240	1,236,750	1,251,810	1,398,070	390,000	1,240,820	1,315,420

10月	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時
383,290	327,060	308,020	525,000	300,850	272,230	305,040	630,000
971,420	892,810	949,510	1,390,000	933,620	884,830	997,230	2,920,000
1,354,710	1,219,870	1,257,530	1,915,000	1,234,470	1,157,060	1,302,270	3,550,000

	年間工賃 計	平均工賃月額
生活介護 (延べ人数: 144)	5,301,120	36,813
就労B (延べ人数: 336)	15,806,900	47,044

《IV 健康管理・栄養管理などの支援》

1 健康管理及び保健衛生等

(1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

(2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、空腹時で7月(利用者と職員)と1月(職員のみ)に実施し、結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、懇談会等で親御さんに説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。

また、糖尿病の利用者へは、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。

(3) 作業環境の把握

作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩(30分に1回)や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒(平成28年度から保護者会より支給)1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら水分管理を行った。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料(ペットボトル1本500ml)を配付し熱中症対策を行った。また、ネックール(首を冷材で冷やす道具)を採用し暑さ対策の強化を図った。

(4) 感染症対策

○ インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、感染症対策を実施した。具体的には、検温の実施、アルコールによる手指消毒、マスクの正しい装着支援、次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取りやパーテーションを利用した食事場面での非対面、十分な換気等による「3密(密閉、密集、密接)」の回避など、可能な限りの対策を実施した。また、利用者へ不要不急の外出を定期的に呼びかけた。

○ 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒が徹底されるよう積極的に声かけを行うなど、利用者及び職員の感染症予防に対する意識向上

を図るよう努めた。

- 洗濯作業においては、汚染物も取り扱うためゴトウ・アズ・プランニングの職員を含めた全職員を対象に、感染症の基礎と疥癬、MRSA、ノロウイルスの勉強会を行い、感染症に対する知識を深めるとともに感染症予防への意識を高めた。

(5) 加古川歯科保健センターとの連携

加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口腔内の汚れが多かった利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。

(6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などの出現に対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

(7) グループホーム利用者への支援

専任の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。

2 栄養・給食について

(1) 給食委員会の開催

利用者の昼食の充実と安心・安全な食事提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食）と連携して給食提供を行った。また、給食委員会を「ひでかつ給食」の栄養士参加のもと4回（6/17、9/23、11/25、2/17）実施するとともに、現場見学（3/31）を行うなど、より良い給食の提供に努めた。

(2) 新型コロナ感染症対策

本年度は、新型コロナウイルスの影響もあり施設での盛り付けが必要な「お楽しみメニュー」を5月から7月まで中止とし、7月からお弁当の形でのお楽しみメニューを提供した。また、昨年度に引き続き、ワークホーム高砂が製造する納豆「なっとこちゃん」を週3回提供した。

《V 人権擁護、虐待防止の取り組み》

1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、平成29年9月1日から「ワークホーム高砂人権擁護委員会」を発足させるとともに、担当職員が中心となって職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を提供し、人権意識の向上をめざした。また、一日2回の引継ぎ時間を活用し、虐待案件について施設長が問題提起するなど職員の意識向上に取り組んだ。

2 本年度の取り組み

職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援を振り返ることが虐待の未然防止には必要であることから、本年度は、4月と6月に施設内研修を実施し、チェックリストによるセルフチェックを行うなど、定期的に職員間で話し合う場を設け、自己を見つめ

直す取り組みを行った。

10月には、高砂市が主催する「虐待防止研修会」（於：ユーアイほっとセンター）に職員3名を派遣し、弁護士の三好先生の講義を受け、法律の観点から何が虐待にあたるのかを学び職場研修に反映させた。

《VI 防災への対応》

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管について毎週点検し、記録に残した。（消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施）
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー 納豆工房なっとこちゃんの立ち上げと同時に敷地内に防犯カメラを4箇所設置し、建物内の防犯についてはセキュリティーシステムを稼働させた。
- 5 防災訓練 2月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

《VII 職員研修（施設外研修）・会議等（主なもの）》

月	研 修 名	場 所	参加者
6	兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援部会 兵庫県知的障害者施設協会役員会	高砂 神戸	齋藤 齋藤
7	新型コロナウイルス感染症発生時の具体的な対応事例 についての検討会 兵庫県知的障害者施設協会正副会長会	姫路 神戸	久木原 齋藤
8	兵庫県知的障害者施設協会役員会	神戸	齋藤
9	兵庫県知的障害者施設協会正副会長会 兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設長会役員会	神戸 姫路	齋藤 齋藤
10	タオルフォルダー視察 高砂市虐待防止研修	高松 高砂	長谷川、楠 齋藤、佐伯、錦
11	行動援護従事者養成研修（主催：知的障害者施設協会） 兵庫県知的障害者施設協会役員会 兵庫県知的障害者施設協会正副会長会 兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設長会役員会	西宮 神戸 神戸 姫路	吉中 齋藤 齋藤 齋藤
12	兵庫県知的障害者施設協会役員会	神戸	齋藤
1	行動援護従事者養成研修（主催：知的障害者施設協会） 危険物取扱者保安講習 危険物取扱者保安講習 兵庫県知的障害者施設協会正副会長会 兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援部会 農福連携関係事業所会議（県知協生産・就労部会）	神戸 高砂 姫路 神戸 高砂 姫路	佐伯 楠、桂 宮本、佐伯 齋藤 齋藤 齋藤
2	のじぎくスポーツ大会参加申し込み説明会 兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設長会役員会	神戸 姫路	吉中 齋藤

3	行動援護従事者養成研修（主催：知的障害者施設協会）	姫路	錦
	兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援部会	高砂	齋藤
	兵庫県知的障害者施設協会正副会長会	神戸	齋藤
	兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設長会役員会	姫路	齋藤
	兵庫県障害者スポーツ協会理事会	神戸	齋藤

《Ⅷ 資格取得等》

資格名称	取得者氏名
行動援護従事者養成研修	吉中 波緒人、佐伯 真、錦 諒

《Ⅸ 施設サービス評価、苦情解決》

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

年2回の保護者懇談会において保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、ご本人からの意見を聞けるようにした。また、平成31年1月に「ワークホーム高砂苦情解決」のルールを設定。以降、苦情や要望については「ワークホーム苦情解決報告書」に記録し職員間で共有するとともに、要望や苦情等の解決を図った。

苦情受付担当者： 楠 英充

苦情解決責任者： 齋藤 克己（理事・施設長）

第三者委員： 富士原 一成（前高砂市社協理事長）、高尾 剛一（あかりの家 元監事）

《Ⅹ 地域支援、地域啓発活動など》

1 見学・実習の受け入れ等

事項	内容
特別支援学校保護者等 説明会	6月24日、7月8日 特別支援学校の保護者や事業所職員を対とした利用者獲得のための説明会 (延べ18名)
施設見学	11月10日 東はりま特別支援学校1年生見学(27名)
特別支援学校実習	11月16日～20日 東はりま特別支援学校(1名) 11月30日～12月5日 東はりま特別支援学校(1名)
学生社会福祉実習	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施なし

2 講師派遣

新型コロナウイルスの関係で予定されていた研修会等が全て中止となった。

3 機関紙の発行

毎月、「月刊ワークホームだより」を発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。

4 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページを平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に作成を依頼し、「月刊ワークホームだより」の発刊の都度、掲載更新した。メンテナンスについても再契約している。

《XI 保護者会活動》

1 年間活動について

(1) 保護者会主催事業

新型コロナウイルスの影響で予定していた全ての行事を中止したが、役員会は予定どおり開催

(2) ワークホーム高砂との共催行事

①保護者懇談会 ②納豆工房なっところちゃん見学会 ※ 保護者参観は中止

(3) 本部・企画委員会（役員会）

①毎月1回開催

2 年間行事实績

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
4月	4月12日(日) 10:00~12:00	2019年度最終 第1回本部・企画委員会	・総会準備、打ち合わせ 等	12名
5月	5月19日(日) 10:00~11:30	第2回本部・企画委員会	・総会の書面決議 ・環境整備事業開催の是非について	12名
6月	6月2日(日) 10:00~11:30	第3回本部・企画委員会	・今後の行事の開催について	11名
7月	7月12日(日) 10:00~11:30	第4回本部・企画委員会	・保護者参観開催の是非 ・行事中止の決定	11名
8月	8月9日(日) 10:00~11:30	第5回本部・企画委員会	・今年度行事について	12名
9月	9月13日(日) 10:00~11:30	第6回本部・企画委員会	・今年度行事について	12名
10月	10月25日(日) 9:30~10:00 10:15~10:45 11:00~11:30	「納豆工房なっところちゃん」見学会	・納豆工房を3グループに分け、3密にならないように見学会を行った。	44名
	13:00~14:30	第7回本部・企画委員会	・クリスマス会の開催の是非について	12名
11月	11月29日(日) 10:00~11:30	第8回本部・企画委員会	・今年度及び来年度行事について	12名
12月	12月20日(日) 10:00~11:30	第9回本部・企画委員会	・クリスマス会代替えのお弁当配布について	11名
1月	1月24日(日) 10:00~11:30	第10回本部・企画委員会	・一年を振り返る会の開催の是非について	12名

2月	2月23日(日) 10:00~11:30	第11回本部・企画委員会	・今年度の振り返り DVD 配布について	12名
3月	3月15日(日) 10:00~12:00	第12回本部・企画委員会	・次年度総会に向けた準備 など	13名

《Ⅻ 総務関係》

1 職員の採用・退職・異動（2020年4月1日～2021年3月31日）

(1) 採用

・正規	支援員	1人（2020年 4月 1日付）
・嘱託職員	支援員	2人（2020年 4月 1日付）
・パート職員	支援員補助	7人（2020年10月1日付 他）

(2) 退職

・正規職員	支援員	1人（2021年 3月31日付）
・嘱託職員	支援員	無（ 年 月 日付）
・パート職員	支援員補助	4人（2020年11月26日付 他）

2 職員構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む 2020. 3. 31現在）

（単位：人）

身分・所属 \ 職種		施設長	医 師	支援員	作業 支援 員	支援員 補助	事務員	看護師	計
正規・嘱 託職員	男	1		8	1				10
	女			5			1	1	7
	計	1		13	1		1	1	17
補助職員 (パー ト)	男		(1)			2			2 (1)
	女					13		1	13
	計					15			16
合 計			(1)						33 (1)

※ () は嘱託医師 ※ 年度末に退職する職員を含めて記載

3 職員年齢構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む）

（2020. 3. 31現在）

（単位：人）

身分・所属 \ 年代	～20歳 代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代 ～	計
正 規・嘱託職員	8	6	1	1	1	17
補 助 職 員	0	1	2	8	5	16
合 計	8	7	3	9	6	33

2020(R2)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	10人(10人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(6人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-5

2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(2021. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	51	A	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H 6. 4. 1~
男性	61	A	区分5	あすなろ学園(生活介護)通所	高砂市	H14. 7. 1~
女性	59	A	区分5	こころね(就労B)通所	高砂市	H27. 6. 15~
男性	36	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
男性	37	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
女性	40	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H28. 4. 1~
男性	48	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	40	B1	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	加古川市	R1. 5. 1~
男性	32	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	40	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	54	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	47	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H25. 11. 1~
男性	40	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	R1. 5. 17~
男性	50	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H27. 5. 1~
男性	47	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H28. 9. 1~
男性	36	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H29. 4. 1~

《友愛の家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日
男性	37	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	35	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	25	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	40	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	姫路市	H29. 8. 1~
男性	50	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	加古川市	H29. 9. 1~
男性	53	A	区分4	あかりの家(生活介護)通所	播磨町	H30. 3. 24~

利用者の平均年齢=43. 6 歳

3 職員

(2021. 3. 31現在)

職 種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	51
サービス管理責任者	あかりの家支援部長兼務	男性	49
生活支援員兼世話人	常勤	女性	50
	常勤	男性	33
	常勤	女性	35
	常勤	男性	23
	常勤	男性	23
	常勤	男性	39
	常勤	男性	32
世話人	非常勤(パート)	女性	57
	非常勤(パート)	女性	60
	非常勤(パート)	女性	50

4 運営について

(1) グループホームの安定的な運営と安全で安心なホームづくり

重度の自閉症者や知的障害者が地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームとして、安定的な運営を図った。

また、夜間の安全を守るための「宿直」体制については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みを継続し、職員間の連携を更に強めながら、支援体制を確保した。

さらに、定期的な生活器具の安全点検や避難訓練を実施する(2019年12月と2020年3月)など、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

(2) 入居者の豊かな暮らしの創造

コロナ禍であっても、豊かで広がりのある暮らしづくりのため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方について、可能な限り多様な過ごし方が体験出来るよう努めた。

具体的には、希望山荘ではベーコンづくり、オリーブの家ではレゴブロックを使った遊び、友愛の家では、10月にオープンした近隣の納豆工房なっとこちゃんへ利用者のみで買い物に出かけた。

(3) 入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、生活習慣病などを意識した食事の提供、適度な運動や異常の早期発見に努めた。また、体調不良等、受診の有無を考慮し、判断し必要であれば受診支援した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、法人をあげてその予防対策に取り組んだ。

[新型コロナウイルス感染予防対策]

- 日常掃除の一環として、次亜塩素酸ナトリウムやアルコール(エタノール 70%以上)によるドアノブやテーブル、台所、トイレなどの消毒拭き掃除を取り入れた。
- 感染リスクが高まる食事の場面では、パーテーションを設置するとともに、利用者同士の間隔を空けて食事を摂るようにした。
- 食事前後や帰荘時など、手洗いやアルコールによる手指消毒を必ず行うように支援した。
- 3密を防ぐため、食事や入浴以外の時間は、利用者は各自室で過ごすよう配慮した。
- グループホーム内でも利用者・職員ともに常時マスクを装着し、汚染した場合や、昼食後は新しいマスクに交換した。

(4) 体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠とオリーブの家の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援できるよう体制を継続した。新型コロナウイルスの影響もあり、今年度の利用は無かった。

(5) 支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。

(6) 地域とのつながり

地域に根ざしたグループホームをめざして、オリーブの家では清掃活動、希望山荘日笠及び友愛の家では日常のゴミ出しや隣保への広報配りなどに参加した。